千葉ヘルス財団
30周年記念誌

公益財団法人　千葉ヘルス財団

千葉ヘルス財団 歴代会長・理事長

初代会長
沼田　　武
（平成３年～平成13年）

初代理事長
土屋秀雄
（平成３年～平成21年）

二代目理事長
崎山　　樹
（平成21年～平成26年）

三代目理事長
平山登志夫
（平成26年～）

千葉ヘルス財団 設立披露会

千葉ヘルス財団30周年記念誌

目　次

あいさつ …… 4

公益財団法人　千葉ヘルス財団　理事長　平山　登志夫

公益財団法人　千葉ヘルス財団　前理事長　崎山　樹

祝　　辞 …… 6

千葉県知事　熊谷　俊人

株式会社　千葉日報社　代表取締役　大澤　克之助

公益社団法人　千葉県医師会　会　長　入江　康文

一般社団法人　千葉県歯科医師会　会　長　砂川　稔

一般社団法人　千葉県薬剤師会　会　長　杉浦　邦夫

公益社団法人　千葉県看護協会　会　長　寺口　惠子

千葉県腎臓病協議会　理事長　小川　光雄

日本 ALS 協会千葉県支部　支部長　並木　新一

新聞記事で振り返る …… 14

千葉ヘルス財団 30 周年記念座談会

30年を振り返り、地域医療の未来へ …… 17

これまで発行した千葉ヘルス財団だより …… 25

千葉日報特集記事 …… 26

年表 …… 28

30年間の事業 …… 37

在宅療養者支援事業

在宅人工呼吸器療養者支援事業

在宅医療システム等補助事業

腎バンク事業

臓器提供意思表示カード配布状況

組織適合検査費助成

臓器提供者等への謝礼

出前講座

寄付金

感謝状贈呈

研修会・公開講座・キャンペーン等

出捐金一覧 …… 65

役員・部会員 …… 69

写真で振り返る30年の歴史 …… 73

定款 …… 77

あいさつ

設立時の目的を守りながら
時代にあった活動を柔軟に

公益財団法人　千葉ヘルス財団
理事長　平山　登志夫

千葉ヘルス財団は、千葉県が設置者となり平成３年６月１日に設置されました。

設立時は、沼田武千葉県知事が会長、理事長に土屋秀雄千葉日報社社長、副理事長に渡辺千葉県医師会長、諸橋日本病院会千葉県支部長が就任され、理事にも県内の医療関係団体をはじめ、県内経済団体からも多数の方がおられ、財団に対する期待の大きさに当時千葉県老人保健施設協議会長として理事及び企画委員会の在宅ケア部会長を拝命した私には身の引き締まる思いと千葉県の在宅ケアの推進に力を注ぐことについて、決意を新たにいたしました。

もともと財団は、昭和60年に設立された千葉県腎移植推進連絡協議会（諸橋会長）を起源としており、同協議会を千葉県の腎バンクとする検討の過程で、当時県内で新たな課題と認識されていた在宅医療、老人医療・難病医療・終末期医療、臓器移植に関する事業を3本柱とし、それらに包括的・弾力的に対応して、県民の保健医療の向上に役割を果たすことを目的に、千葉ヘルス財団がスタートしました。

同時に、千葉県では財団の設立の趣旨が広く県民に理解され、県民一人ひとりの善意が結集し、大きく育っていくことを期待し、県民の皆様、市町村、医療機関、医療団体、企業など広く協力を得て、財団の基本財産を確保しました。

その後、公益法人制度改革関連3法の施行により、平成25年４月１日から、公益財団法人として新たな１歩を踏み出しました。

設立以来30年間、財団では、臓器移植の普及啓発や臓器移植希望登録時の検査費用の助成、在宅ケア研修会、在宅療養者への機器購入費用の補助、意思伝達装置の貸出などの事業を継続し実施しています。

このような事業が続けられたのも、医療関係者のご支援や千葉県腎臓病患者連絡協議会、日本ALS協会千葉県支部などの患者会の皆様のご協力があってのことと感謝しております。

この30年間で在宅ケアでは、診療報酬の改定や介護支援制度の導入、更にはIT技術やロボット技術の開発により患者やご家族の負担は大きく改善されてきています。これからは、それらの更なる発展により、患者となっても社会活動に参加したいと思う方への支援などに対応していきたいと考えております。

また、臓器移植においては、1997年の臓器移植法の制定、2010年の同法の改正により法的な環境は整備されてまいりましたが、日本の移植数は海外に比べ少なく、移植希望の登録からの手術までの待機時間が非常に長くなっています。財団では多くの県民に臓器移植について考え、ご理解とご協力をいただけるよう公開講座や教育機関への出前講座などを開催してまいります。

これからの10年、20年、30年に向け設立時からの目的を守りながら、時代に合った活動を柔軟に実施し、公益財団法人として皆様のお役に立てるよう活動していく所存ですので、皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

あいさつ

財団の事業の更なる充実と一層のQOLの向上を

公益財団法人　千葉ヘルス財団
前理事長　崎山　樹

私は2009年７月から約５年間理事長（当時）を務めさせていただきました。初代で前任であられた故土屋秀雄氏はご存知の通り、千葉県内での文化面の指導的立場におられ、最適な方でありましたので、小生が引き継ぐには荷が重すぎると固辞いたしましたが、事務当局の強い説得の故にお引き受けすることとなってしまいました。

当財団の事業の大きな柱である臓器移植推進と難病患者の在宅医療支援は私にとって経験のない分野でありましたが、いずれも千葉県の医療に占める役割の緊要さは大きく、待ったなしで日々闘病生活を続けておられる患者さんのために、医師、看護師のみならず多職種の方々の緊密な連携によって事業が支えられていることを知り、現場で尽力されている方々の姿に頭の下がる思いで一杯でした。

事業に関わる医療従事者への研修会の重要性もさることながら、移植医療については将来直接それに携わる医学生の教育が必須ではないかと考え、千葉大学医学部における講座の新設に取り組みました。昨今の医学部教育のカリキュラムは過密化しており新設講義枠の確保は容易なことではなく、千葉大学附属病院長、倫理医学担当教授などに臓器移植医療に関する総合的な講義の必要性を説明し、2013年開設に漕ぎつけることができました。幸いなことに、現在に至るまでこの講義は続けられていると聞き、大変に嬉しく思っております。この場をお借りして、講義新設にご尽力頂いた千葉大学の先生方に感謝申し上げます。

当財団が支援の対象としておられる臓器移植の待機患者さんや在宅で難病と闘っておられる患者さんの立場は、自然災害時はもとより昨今のような生物災害時にも、より厳しい立場に追い込まれるのは自明です。このような時期だからこそ、当財団の事業の更なる充実と一般県民の当財団への益々の深いご理解とご支援に向けた働きかけが強く求められていると考えております。

今後、益々千葉ヘルス財団が発展され、支援事業により恩恵を受けられる患者さんと家族の皆様により一層のQOLの向上がもたらされることを祈念いたします。

祝　　辞

県民の健康の保持増進と保健医療の尽力に感謝

千葉県知事
熊谷　俊人

この度、公益財団法人千葉ヘルス財団が、創立30周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴財団は、平成３年６月の設立以来、臓器移植の推進や在宅ケアの推進に関する事業を大きな柱として、高齢化の進展や医療技術の進歩等により生じた様々な保健医療の構造変化や課題に包括的、弾力的に対応し、長年にわたり県民の健康の保持増進と保健医療の向上に尽力してこられたことに深く敬意と感謝の意を表します。

特に在宅人工呼吸器療養者への支援では、患者やその家族の大きな力となり、人工呼吸器が保険適用されるまでの間、必要な患者に貸与するシステムを創るなど、在宅療養を希望する方が住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう在宅ケアシステムの構築に向けた活動を積み重ねてこられました。また、臓器移植においては、移植医療に対する県民の皆様の理解が深まるように活動を続けておられ、とりわけ大学生や高校生などの若い世代を対象とした啓発活動は、未来を担う若者たちにとりましても大変貴重な機会となるなど、県の臓器移植施策の推進に多大なる御貢献をいただいております。

本県では、今後、少子高齢化が進展する中で、特に高齢者人口の急増や、疾病構造が大きく変化し医療需要も増加すると見込まれている状況下において、貴財団の果たす役割は益々重要になっていくものと考えます。

県といたしましても、県民の皆様が住み慣れた地域で安心して医療や介護が受けられるよう、関係団体の皆様方と連携し、保健医療の向上と保健医療提供体制の充実に向け取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、貴財団の益々の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝　　辞

保健医療分野の充実と向上
期待と役割さらに大きく重く

株式会社　千葉日報社
代表取締役　大澤　克之助

公益財団法人千葉ヘルス財団が設立30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。県民の保健医療の向上に寄与すべく在宅医療ケアと臓器移植の推進を事業の柱として研修会や公開講座、啓発や在宅医療支援など、さまざまな活動に取り組んでこられた医療・運営関係者すべての皆さまに深く感謝と敬意を表します。

財団設立当時の高齢化率は12.1％でしたが、現在は30％近くにまで上昇しています。高齢化率は今後も上昇を続けることが見込まれ、県内でも都市部を中心に医療、介護、ヘルスケアを担う人材と施設の不足が懸念されています。また、医療の進歩によって医療ケアを必要とする子どもも増加しています。こうした社会状況の変化に加えて、なかなか需要に追いつくことができない臓器移植の増加も課題となっています。

近年、頻発する大規模自然災害や新型コロナウイルスをはじめとする新たな感染症などから難病患者の命を守る方策も急務です。

こうした県民の理解と支援・協力を必要とする保健医療分野の充実と向上において、千葉ヘルス財団への期待と役割はますます大きく重くなっていくのではないでしょうか。

「ローマは一日にして成らず」ということわざがあります。特に臓器移植については大変な活動ですがこれからも官民が力を合わせて幅広い世代へ地道な啓発を続け、理解を深めてもらうことが肝要だと思います。

30周年を機に千葉ヘルス財団のさらなる発展と活動の広がりを祈念するとともに、地元メディアとして千葉日報社も活動のお役に立ちたいと思っています。

祝　　辞

県医師会と手を携えて体制づくり
包括ケアのシステム構築重要

公益社団法人　千葉県医師会
会　長　入江　康文

千葉ヘルス財団設立30周年誠におめでとうございます。千葉県医師会を代表いたしましてお祝いを申し上げます。

千葉ヘルス財団は、平成３年の設立以来、在宅ケアの推進及び臓器移植の推進を大きな柱として活動され、県民の健康保持増進に大きく寄与されて来たところです。

私自身も、財団設立当初から腎臓内科医として関わらせて頂いたこともあり、30周年という節目を迎え大変感慨深いものがあります。

さて、人生100年時代を迎え、県民一人ひとりが住み慣れた地域において、医療ニーズを含めた包括的なケアを受けられるシステムを構築していくことがますます重要となっています。

また、千葉県内をみても、腎臓を中心とした臓器移植希望者が500人以上いる一方で、臓器提供者が圧倒的に少ない状況となっており、臓器移植への理解を深める活動も重要です。

30年前の設立時と比べ、急速な高齢化や社会保障制度改革など財団を取り巻く環境も大きく変化していますが、今後とも、県民の皆さまが健康に安心して生活できる千葉県づくりを目指し、医師会は千葉ヘルス財団と手を携えて進んでまいりたいと考えております。

結びに、千葉ヘルス財団のますますのご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせて頂きます。

祝　辞

障害者歯科事業の目標達成を共に協力し手を携えて

一般社団法人　千葉県歯科医師会
会　長　砂川　稔

千葉ヘルス財団設立30周年をお迎えになりましたことに心よりお喜び申し上げます。長きにわたり平山登志夫理事長始め多くの方々の献身的なご努力、情熱に衷心より敬意を表します。また、平素は千葉県歯科医師会の事業に多大なるご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。

「ノーマライゼイション」という考え方がデンマークのバンク・ミケルセンが1950年代に提案し1959年に法制化され全世界にその考え方が広まって来ています。第二次世界大戦後、福祉国家として世界で最も幸せな国と賞される礎を築かれた方です。障害のある人が障害のない人と同等に生活し共に生き生きと活動できる社会を目指すことは、民主国家の基本になるべきことで社会の成熟度と品格を示す指標になることだと思います。それは障害を持った人に留まらず、難病、高齢者、認知症などの様々な人に通じる考え方になってきています。もっと踏み込んで考えれば世界中で問題になっているヘイトクライムにも同様なことが言えると思います。

千葉県歯科医師会は障害者の歯科診療に取り組んでいます。千葉県行政からの障害者福祉委託事業として巡回診療車（通称ビーバー号）が県内の施設を巡回していく事業を40年以上続けてきております。当会も従来の事業を継続するだけでなく、医療団体の組織として社会に何が求められているのか、何ができるのかを見つめ直していかなければならないと感じています。貴財団の30周年、当会の障害者歯科事業40周年を機に、共に協力し合って目的を達成していけるように手を携えて歩んでいけますことを切に望んでおります。

結びに貴財団の益々のご発展とご隆盛をご祈念申し上げお祝いの言葉にかえさせていただきます。

祝　　辞

時代の変化に対応した事業展開に期待

一般社団法人　千葉県薬剤師会
会　長　杉浦　邦夫

貴財団設立30周年おめでとうございます。

現在、千葉県では高齢化率が27.1％まで進み、今後この傾向はさらに加速することと思われます。高齢化では罹患率が上昇し、重症化に伴う入院期間の長期化も危惧されるところです。しかし、患者を受け入れる医療機関では、病床数には限りがあります。また、国民医療費が圧迫されていることから、これからは在宅医療の充実が求められてきます。医療のステージに在宅医療が定着し、QOLやADLを確保するための取り組みが必要です。そこで、よりよい在宅医療を提供するため、職能団体では質の高い医療従事者の育成に努めているところです。

一方、我が国の医療は国際的に見ても高い水準に位置しています。これは医療従事者の力量のみならず、高度な科学技術を基盤とした医薬品・医療機器が大きく貢献しています。これら医薬品・医療機器は画期的な効果をもたらすものの、導入するには多大な費用が伴います。先に申しましたように、我が国の国民医療費はひっ迫しています。患者さんが必要とする医療を活用できる体制創りが必要になります。

我が国の医療はとても充実していますが、以上のようにいくつかの課題があることも事実です。貴財団はこれら問題を解決すべく、多方面の活動で千葉県の医療をささえています。このような地道な活動があるからこそ、30年もの間財団を維持できたことであり、これからも継続することと思われます。

くり返しになりますが、我が国の医療はとても高水準ですが、一方で欠けている部分があります。その不足する部分を貴財団が担うことで、千葉県の医療は充実することでしょう。これからも千葉県の医療を担う財団として、時代の変化に対応した事業展開に期待しています。

祝　　辞

従来以上の密接な連携で
地域包括ケアシステムを推進

公益社団法人　千葉県看護協会
会　長　寺口　惠子

公益財団法人千葉ヘルス財団が設立30周年を迎えられましたこと、心からお慶びを申し上げます。

この30年間は、日本の社会や医療を取り巻く環境はもとより、医療そのもののありようが劇的に変化を遂げました。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年、さらに団塊ジュニアが高齢者となる2040年に向け、県単位で地域医療構想が策定され、入院医療から在宅医療まで切れ目なく、住み慣れた地域で、安心して、自分らしい生活を続けられるよう「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。

これからの医療の方向性として「治す医療」から「予防し、治し、支える医療」へ、従来の病院完結型医療から、医療・ケアと生活が一体化した地域完結型医療への体制の転換が図られようとしています。

そのような中、千葉県が主体となり、県民の皆様、市町村、医療機関、医療団体、企業などの協力で設立された貴財団におかれましては、設立当初から、県民の皆様の保健医療の向上と健康の保持増進に寄与するため、在宅医療、老人医療、難病医療、終末期医療、臓器移植などの事業において大きな役割を果たしてこられました。平山理事長をはじめ関係者の皆様の御努力に敬意を表します。

千葉県看護協会は、地域包括ケアシステムの推進を重点事業として取り組み、保健・医療・福祉の連動した地域社会づくりに向け活動しておりますので、従来以上に貴財団との密接な連携が取れますよう、よろしくお願いいたします。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるっており、わが国におきましても、国民は新しい生活様式への対応が求められ、多くの医療機関が多大な影響を受けています。一日も早く通常の医療提供体制に戻ることを期待申し上げますとともに、貴財団の益々の御発展と関係の皆様の御健勝を祈念申し上げ、設立30周年に寄せる言葉といたします。

祝　　辞

ドナー提供者を一人でも多く
相互に臓器移植キャンペーンを

千葉県腎臓病協議会
理事長　小川　光雄

千葉ヘルス財団が設立30周年を迎えられますこと誠にめでたく心よりお祝いを申し上げます。

私どもの千腎協は貴財団が設立当初から深く関りがあり腎臓の臓器移植をはじめ啓蒙活動であります臓器移植キャンペーンの共催などで相互に協力活動してまいりました。

平成３年の貴財団設立当時、県内の透析患者は3,600人であると言われておりますが、今や透析患者は15,000人を超えております。私達の活動目標は透析患者の命と暮らしを守り、平穏で一日も長く社会生活を行っていくことにあります。しかしながら究極の社会復帰のためには腎臓の移植という臓器移植にあると思います。今でも多くの透析患者が夢と希望をもって今か今かと移植を待ち望んでいるところであります。

本年１月千葉県での移植の権威者であります千葉大学医学部丸山通広先生が千腎協の機関紙「千葉腎友」に寄稿された「千葉県での腎移植医療の動向」にも述べておられましたが千葉県ではドナー提供者が極端に少なく腎移植ができるのは宝くじに当たるようなものだと語っておりました。

千腎協といたしましても年間の推進重点であります「臓器移植キャンペーン」を貴団体のご指導をいただきながら強力に推進しドナー提供者を一人でも多く獲得できるよう邁進する所存であります。

結びに千葉ヘルス財団の30周年を祝すとともにこれまで運営に携わって来られました平山理事長先生以下役員の皆様そして関係者の皆様のご尽力に対し心から感謝と敬意を申し上げます。

30周年を契機として今後も皆さまのご多幸と千葉ヘルス財団が益々発展するよう祈念しております。

祝　辞

人工呼吸器の貸し出し制度は宝
生きたいと願う患者さんに希望の光

日本 ALS 協会　千葉県支部
支部長　並木　新一

この度は、設立30周年、誠におめでとうございます。現在支部長をさせて頂いておりますが、私自身人工呼吸器をつけて９年になりますALS患者です。

支部設立時の初代支部長の竹内栄巧氏は、支部設立後に人工呼吸器を200万円位で自費購入して在宅となりました。竹内支部長は「足が悪くなれば車イスが支給されるのに、呼吸が悪くなったら人工呼吸器は何故自費購入なのか？だから皆死んでしまうのだ！」と言われ、関係者と話し合い、当時の県議の川井敏久氏に仲介の労をとって頂き、人工呼吸器の貸出し制度を作ってほしいと平成２年、沼田県知事に陳情されたと聞いてます。

その後、平成３年６月に千葉県が中心となり設立された「財団法人千葉ヘルス財団」より人工呼吸器が貸出され、早い対応に大変喜び、国による人工呼吸器の貸出しが出来る迄、人工呼吸器の必要な県内の患者さんに貸出されました。この制度が出来る迄、多くの先生方にご協力を頂きました。この制度は他県の支部にも参考となり、生きたいと願う患者さんの希望の光となりました。

国の貸出し制度が出来てからも、財団からは在宅療養に必要な吸引器やパルスオキシメーター等の支給が実施されALSを初め他の難病の方々も大変助かっています。

更に、ALSは病気が進行するとコミュニケーションが取りにくくなり、早目に障害者用のパソコン等で練習しなくてはなりませんが、中々申請しても機器が支給されません。そのような中、支給される迄の練習用コミュニケーション機器を財団から毎年1台支給して下さり、長い間貸出して下さいました。千葉ヘルス財団には、感謝しかありません。

千葉ヘルス財団の理事長平山先生はじめ役員の皆様、そして事務局の皆様にお礼を申し上げ、今後共、難病の方々へのご支援宜しくお願い申し上げます。

設立時の新聞記事

1991年6月1日付
千葉日報

千葉ヘルス財団設立

課題に弾力的取り組み

保健医療向上へ

会長に沼田知事

高齢化の進展や病気構造の変化から医療施設を中心とし、家庭、福祉施設の在り方に大きな変化が生まれてきた。県は、こうした状況を踏まえ在宅、老人、難病、終末期医療をはじめ腎バンク、臓器移植など今後の医療課題に弾力的に取り組むためきょう一日付で千葉ヘルス財団を設立する。

県民の保健医療の向上を目的として県内各市町村はじめ医療機関、医療団体、事業所にも協力を求め、五億円の設立基金でスタートする。事務局は県衛生部医務課に置き、会長には沼田武県知事、理事は医療関係者、経済団体、市町村代表（二十五人以内で構成する。

主な事業内容は、在宅訪問看護、データバンク事業（医療情報の収集）、難病患者に対する医療機器貸与、腎臓提供者の募集と登録や調査、研究の助成など。特に医療機関では解決できない問題やシンポジウムの開催などに取り組んでいく。財源は県が二分の一、市町村と民間が四分の一ずつ負担、七年度までに基金造成していく。

このなかで、在宅看護は難病患者や寝たきり老人のために主治医の指示を受け、地元医師会、病院、看護関係とともに看護システムのチームづくりを行っていく。データバンクは在宅医療に関する医療施設、介護機器の実情などの情報、資料収集や情報提供。難病患者にはこのところ筋萎縮側索症の患者について必要となる人工呼吸器の無償貸与を病院を通じて実施していく。また、終末期医療（ターミナルケア）は県内では、ほとんど関係施設がなく、シンポジウムなどを開いて意識啓発を図る。さらに腎バンクを設立、専門の医療機関とオンラインで結び、腎移植のための協力体制を確立する。

臓器移植では、今後個度化と見られる骨髄移植（白血病）について厚生省などとネットワークをつくり、これに対応していくほか、研究なども手掛けていく。具体的な取り組みは関係機関の代表で構成される企画委員会で審議していく方針。

新しい医療技術の進歩に伴い行政が即応できない面を同ヘルス財団が包括、弾力的に対応し、県民の保健医療の向上に努めていく。

1991年6月29日付
千葉日報

ヘルス財団が発足

円滑運営へ支援呼び掛け

医療や家庭、福祉など各方面で新たに増大している課題に対応するため、今月一日に発足した(財)千葉ヘルス財団の設立披露会が二十八日午後、千葉市内のホテルで開かれた。会場には保健・医療関係者はじめ市町村や県の担当者、経済界、ボランティア団体の代表ら約二百五十人が出席した。

同財団会長の沼田知事が「財団は、在宅、老人、難病、終末期医療、腎をはじめ臓器移植などの課題に包括的、弾力的に対応するものだ。これだけ幅広い対象事業を抱える組織は例を見ない」とあいさつ。理事長の土屋秀雄千葉日報社社長は「アイバンク、腎バンクなどは各地にあるが、包括的で幅広い事業を行う財団は全国でも初めて。財団活動を進めるには財源が必要。皆さんのご支援を」と協力を要請した。

続いて渡辺猛彦事務局長が「財団は基本財産の果実で運用する。県が二分の一、市町村が四分の一、残り四分の一は民間の寄付などの出捐金。五年間で五億円達成が目標だが、事業を一日も早く始めるためにも早く達成したい」などと設立経過を報告した。

これに対し県腎臓病患者連絡協議会の中村和子会長が「人口透析者を中心にした患者の会で、透析から離れるには腎移植しかなく、一日も早い腎バンクの設立を行政にお願いしていた」と喜びを込めて謝辞を述べた。

会場には厚生省の茂木廣病対策課長補佐や永野博県会議長、吉田亮千葉大学長、松井旭千葉市長らが姿を見せ、祝辞を述べた。

役員は次の通り（敬称略）。▽会長＝知事・沼田武▽理事長＝千葉日報社長・土屋秀雄▽副理事長＝県医師会長・渡辺武、日本病院会県支部長・請橋芳夫▽常務理事＝県がんセンター名誉センター長・嶋村欣一▽理事＝県看護協会長・赤井つる、県社会部長・大塚英子、県中小企業団体中央会長・勝又豊次郎、県町村会長・京増正義、県透析医会長・小出桂三、県民間病院協会長・小林金市、県商工会連合会長・高橋喜三郎、市川市長・高橋國雄、県腎臓病患者連絡協議会長・中村和子、ライオンズクラブガバナー・長崎、県救急医療センター長・野口照義、国立佐倉病院名誉院長・橋爪勝光、千葉大医部長・林豊、国際ロータリーガバナー・平塚新兵衛、県人保健施設協議会長・平山志夫、県衛生部長・松浦秀雄▽監事＝県銀行協会長・吉田亮、県出納長・山本孝也

財団設立についてあいさつする会長の沼田知事、前列右端は土屋理事長

2014年10月21日付
千葉日報

臓器移植推進に理解を

中央区で市民公開講座

臓器移植についての市民公開講座「脳死移植推進の理解を深めるために」（県、千葉ヘルス財団主催）が17日、中央区のホテルで開催された。10月の臓器移植普及推進月間の一環。

基調講演で、脳死移植を推進する会の川越一男理事長が「臓器移植する？しない？」と題し、社会の理解を得ながら情報を発信していく重要性を説き、「賛成でも反対でもいい、ひとりひとりが命のリレーについて語り合う機会を増やしてほしい」と訴えた。

講師
基調講演の川越一男講師

特別講演は、脳死移植推進の課題と移植医療現場の現状が語られ、続いて実際の臓器移植体験談の発表や意見交換がなされた。

大谷俊介県健康福祉部疾病対策課長が「私たちにも救える命があるという認識が広がり、多くの臓器移植希望者の願いがかなうことを祈っている」と冒頭にあいさつがあった。

2015年10月22日付
千葉日報

「日本人の臓器提供少ない」

千葉ヘルス財団 公開講座で指摘も

千葉ヘルス財団は、中央区内で市民公開講座「意思表示が想いをつなぐ」を開催し、一般市民ら35人が臓器移植の知識を深めた。

千葉大学医学部付属病院呼吸器外科の吉田成利准教授は「（日本の）人口100万人当たりの臓器提供者数は、アジアや中東の国々と比較しても0・9人と圧倒的に少ない」と指摘するとともに、来年1月から交付されるマイナンバーカードに臓器提供の意思表示欄が記載される行政の動きなどを紹介。

専門医として「肺移植を受けた患者の多くが呼吸状態の改善、社会復帰を遂げている。（肺移植に）課題はあるものの、有効性のある治療だ」と締めくくった。

第2部では心臓移植の体験者やドナー、その家族らが参加したパネルディスカッションを展開。移植を体験した市内在住の主婦、瀬川美由起さんはドイツでの移植体験を披露し、「普通の生活ができることに感謝している」と述べた。

パネルディスカッションに参加するパネリストとそれに聞き入る参加者ら＝中央区

2016年12月21日付
千葉日報

我孫子高

「命について考えて」

臓器移植直面の2人講演

心臓移植を待つ人と体験者が講演する「臓器移植推進出前講座」が20日、我孫子市の県立我孫子高校（中山公央校長、生徒966人）で開かれた。同校の人権教育の一環で、命の大切さを生徒に伝える狙い。臓器移植に直面した2人が悩みや希望を語り、全校生徒が真剣な表情で耳を傾けた。

同講座は、千葉ヘルス財団が主催。移植を待つ患者数に対して臓器提供数が少ない状況の中、同財団が2012年から、移植医療を理解してもらおうと大学医学部や看護専門学校などで始めた取り組み。高校で開催するのは初めて。

生徒の前で臓器移植や補助人工心臓について説明する木内さん（左）と河合さん＝20日、我孫子市の県立我孫子高校

補助人工心臓で生活しながら心臓移植を待つ船橋市の河合容子さん（49）は「余命1年からのスタート」と題し、拡張型心筋症を発症してから移植を目指すことを決めるまでの思いを語った。移植を待つ上での悩みも告白し「余命1年だった私が心臓移植を知って今も生かされている。移植医療の可能性や自分の命をどう使うか、若い人に考えてほしい」と呼び掛けた。

23年前に心臓移植した佐倉市の木内博文さん（46）は「二人三脚で共に生きる」と題して講演。当時の心境や移植後も薬を飲み続けなければいけないことなど、リアルな体験談を語った。

臓器提供者を意味する「ドナー」の家族からの手紙も紹介し「移植者が生きているのはドナーが生きていた証し。僕とドナーの2人で生きているという気持ち」と話した。

2人は講演後、交流サイト「フェイスブック」で募った臓器提供意思表示カード「ドナーカード」を手にした人々の写真を紹介。「臓器提供に同意するのも、拒否するのも一つの意志。重要なのは関心を持って考えること」と口をそろえた。

河合さんの補助人工心臓のバッテリーを生徒に触れさせ、重さを体験してもらうなどして交流した。

講演を聞いた2年、新井裕奈さん（16）は「ドナーカードのことは知っていたが、今まで深く考えたことはなかった。心臓移植を待つ人の話を初めて間近で聞き、理解していきたいと思った」と関心を深めた様子だった。

2017年9月23日付
千葉日報

〝命の選択〟考えて

敬愛学園高で出前講座

臓器移植への理解深める

千葉ヘルス財団主催の「臓器移植推進出前講座」が、稲毛区穴川1の敬愛学園高校（白鳥秀幸校長、生徒1190人）で開かれ、日本臓器移植ネットワークの移植コーディネーター、後藤清美さんが講演し、3年生380人が臓器移植への理解を深めた。

日頃からドナー（臓器提供者）とレシピエント（臓器移植の受容者）をつなぐ役割を担う後藤さんは、日本の移植医療の現状を分かりやすく解説。「臓器提供は移植を待つ人はもちろん、ドナー本人とその家族のためのもの。〝命の終わり〟を考えた時、一番後悔が少ない方法を選んでほしい」と、生徒へ呼び掛けた。

同講座は、移植を待つ患者数に対し臓器提供数が少ないことから、若年層に知識を持ってもらおうと、同財団が2012年から大学医学部や看護専門学校などで始めた取り組み。移植を受けた人や関係者らが経験を話し、臓器提供意思表示カードが配られる。

「病気や事故はいつ襲ってくるか分からない。命について考え、自分の思いを家族や友人に伝えてほしい。そして自分と違う意見も尊重してほしい」と訴えた後藤さん。講演を熱心に聞いていた藤谷拓矢さん（17）は「小学校で臓器移植講座を受け、意思表示カードに記入済み。脳死状態になったら自分にできることは臓器提供だけなので、可能ならば協力したい」と話した。

医療の道を志している山口美咲さん（17）は「生命維持装置によって保たれる命は、生物的にも尊厳的にも定義が難しい。これから見聞を深めて判断していきたい」と真剣な表情だった。

高校生へ移植医療の現状を解説する後藤さん＝稲毛区の敬愛学園高校

2018年12月19日付
千葉日報

臓器移植に理解を

千葉ヘルス財団 県立泉高で出前講座

千葉ヘルス財団は、若葉区の県立泉高校（松﨑達也校長）で「臓器移植推進出前講座」を開いた。県臓器移植コーディネーター、柴尾裕加里看護師が講演し、全校生徒545人が臓器移植への理解を深めた。

高校生へ移植医療の現状を解説する柴尾さん＝若葉区の県立泉高校

柴尾さんは市川市の病院で副看護部長を務めながら、移植医療の現場でドナー（臓器提供者）とレシピエント（臓器移植の受容者）をつなぐ役割を担っている。自らの体験を交え、臓器提供の意思表示がなかなか浸透しない日本の移植医療の現状について解説。1人のドナーから最大11人に移植が可能なことなどを説明した。

同講座は、若年層に移植医療についての知識を持ってもらおうと、同財団が2012年から大学医学部や看護専門学校などで始めた取り組み。受講者には臓器提供意思表示カードが配られる。

受講した3年の奈良明莉さん（18）は「臓器移植の現場で人の気持ちのケアやコミュニケーションが大切にされていること、移植が人の優しさで成り立っていることがよく分かった」と話した。

2020年9月15日付
千葉日報

災害時の難病者ケア考察

医療・福祉関係者研修会

千葉ヘルス財団

千葉ヘルス財団（千葉市中央区、平山登志夫代表理事）は、難病患者や医療的ケア児への災害時支援をテーマにした在宅ケア研修会を同区のホテルで開催し、医療・福祉関係者ら80人が耳を傾けた。

医療的ケア児は、人工呼吸やたんの吸引など常時医療的な介護が必要な子どもたち。基調講演で国立成育医療研究センターの中村知夫診療部長は、新型コロナウイルス感染拡大と災害が重なった際の医療的ケア児への支援と取り組みを紹介。「物資の備蓄は最低7日分。日頃から地域とのつながりを重視し、非医療機関にも協力を求めて」と呼び掛けた。

また、災害対策支援アプリ開発の必要性にも言及。自助・公助の強化と多職種の連携を期待した。

元医師でALS（筋萎縮性側索硬化症）患者、NPO法人「Smile and Hope（スマイルアンドホープ）」の太田守武理事長は、事前に録音した音声を使い講演。災害に備え、自身が実際に24時間電気なし生活を試みて得た気づきや対策を報告し、平常時から訓練しておく重要性を訴えた。

その後のシンポジウムでは市の担当者や、昨年の台風被災地の訪問看護師が災害時の電源確保について意見交換した。

フェースガードをつけ講演した中村診療部長＝千葉市中央区

千葉ヘルス財団
30周年記念座談会

30年を振り返り、地域医療の未来へ

財団設立からの30年を振り返り、懐かしい思い出話と現状、そして未来へ向けた展望を当時の県の課長、理事、部会長の皆さんに語っていただきました。

出　席　者

山崎　彰美●財団設立時の県衛生部保健予防課長（柏市保健所 所長）
平山　登志夫●理事長、在宅ケア部会長（平山病院 院長）
中村　宏●理事、在宅ケア部会委員（クリニックあしたば 院長）
竜　崇正●臓器移植部会部会長、在宅ケア部会副部会長（浦安ふじみクリニック 院長）
川越　一男●臓器移植部会副部会長（五井病院理事長、NPO 法人「脳死移植を推進する会」理事長）

司　　会

大澤　克之助●評議員（千葉日報社 社長）

腎バンク事業と在宅医療推進を掲げて誕生

在宅医療の黎明期を経て設立

大澤　このたび千葉ヘルス財団設立30周年にあたり、設立当初から長く財団に携わってこられた皆さまに、30年間の歩みについて改めて語っていただきます。はじめに、平山理事長より設立当時の財団との関わりについて、振り返っていただきたいと思います。

平山　30年を振り返りますと、あっと言う間に過ぎたような気がします。私は千葉県老人保健施設協会の会長ということで、財団からお声がけいただいたと思いますが、もともとは外科で救急をやっていて、千葉に大団地ができるが、そこに救急医療従事者がいないということで千葉に来て、救急をずいぶん一生懸命やりました。救急というのは、ベッドに空きがないと救急車を引き受けられません。小さい病院で始めたため、空きベッドを確保するには、回復した患者は退院してもらわなければならない中、脳卒中で一命を取り留めたお婆さんがいました。なかなか退院しないので、帰宅後も往診するからと承知してもらい、実際に往診に行ったら、そのお婆さんが、おむつをして押し入れの中に寝かされているんです。その光景に医者として、治ったから家へ帰れと簡単に言って、それで果たしてよかったのかと。そのお婆さんに必要なのは、注射をすることでも何でもない、お世話をすることなのですが、家族にはそれができない。お婆さんには居場所もないんです。

それで退院後の高齢者が入居できる特別養護老人ホームについて調べたら、千葉県に１ヵ所だけあって、鹿野山でお寺が運営している。行ってみたら「寝たきりの人は引き受けますよ、ただし病気があったらダメ」だと言うんです。病気があるから寝たきりになるわけで、そこから自分の診療所で診られる範囲で作りたいと考え、苦労してやっと申請が通り、私が診察して、看護婦の家内が介護する、あとは近所の奥さんたちを集めて、「おむつはこう替えるんだ」と指導するところから始めました。当時、脳卒中の患者は50歳代からが多く、何とか寝たきりにさせず、少しでも充実した生活ができるよう、いろいろ試みました。

その後、厚生省（当時）が提唱する中間施設、退院して自宅で過ごせるようにするための新たな施設を作るモデル事業に参画してきました。病気を医療として治し、退院後は、その人が自活できるようにする場所として、老人保健施設を立ち上げたんです。当時はまだ「介護」

という言葉もなかったのですが、やがて全国的に増えていき、現在は約４千施設。我々がその第１号でした。

財団設立前から、往診は行われていましたが、退院した寝たきりの患者をお世話するのは家族の仕事、というのが当たり前で、積極的に往診をしても、医師以外は家に入れないという風潮も残る中、こうした財団の設立につながったというのは、もともと、そういう温かい気持ちを持つ県民性だったことが大きかったのだと思います。

「作ってしまえば、人は動く」

大澤　山崎所長は厚生省（当時）から派遣され、県衛生部保健予防課長として財団の設立に携わられたと伺っています。設立の経緯や、当時のエピソードを教えていただけますでしょうか。

山崎　私は平成２年７月、当時の厚生省から県衛生部保健予防課長として赴任いたしました。同時に衛生部長に就任したのが、松沢さんでした。それまで県では腎バンクを作ろうと２年くらい前から動いていましたが、松沢さんが来て、突然、在宅医療についても盛り込もうというお話が出て、衛生部の職員すらあまり理解できないし、財政部に予算をくれと言っても全然ダメなんですよね。そのたびに、松沢部長から怒られて「なぜわからないんだ」と言われた記憶があります。最終的には松沢部長から知事さんへお話を持っていき、知事さんから腎バンク事業と在宅医療推進事業の二つをやりましょう、と指示をいただきました。衛生部の職員は反対しましたが、松沢部長は「作ってしまって、人を充てて、お金が入れば、今いるお前たちはやらないかもしれないが、その後、後任で来る奴は喜んでやる。人間はそういうものだ」と。実際、そのようになりました。「作ってしまったら何とかなる」、その後の担当者の方々は、設立当初の精神を受け継いでいったという印象があります。

もう一つは、資金集めです。県と市町村が負担しますが、民間では当時、理事長さんに千葉日報社の社長さんが就任し、経済界からの資金集めに動いてくださり、その他に旭中央病院長の諸橋先生は日本病院会の会長で、大変医療業界に顔が利くということで、寄付金を集めて下さった。また当時の千葉県医師会長だった渡辺武先生も、熱心に活躍して下さいました。

在宅医療部会については、当時は資金があったので、県民を対象とした講演を行い、著名人を研修の講師として招くことができました。例えば聖路加大学の日野原重明先生、上智大学で死生学を専門とするドイツ人教授のディーケン先生、また歌手の橋幸夫さんは、痴呆性疾患のお母様の介護経験を話された。腎部会に関しては、遺体からの腎移植推進の観点で、県の救急センター、松戸市立病院、君津中央病院の三次救急施設の現場の先生方と、移植医の先生方がディスカッションをする場をセッティングしたことを覚えています。

大澤　県の関係課長として、さまざまな調整に奔走されたのですね。その後、県と市の職員として保健所長を歴任して保健予防衛生と長く携わっていらっしゃいますが、この30年、在宅ケアの分野はどのように変わってきたのでしょうか。

山崎　私の認識としては、平成４年に老人訪問介護、その後に老人以外の訪問看護が制度化され、介護保険が平成12年に施行されて、一気にいろいろな制度ができた印象です。また、県が作成する医療計画が作られ始めてから30年以上になりますが、当初は病床をいかに確保するかが中心でした。最近では在宅医療についても主要記載項目になっていますので、これまでの財団や千葉県の成果があったものと評価しています。

継続療養には訪問診療、訪問介護が必要

在宅医療体制の構築をめざして

大澤　中村理事は平成10年から現在まで、在宅ケア部会委員を務めていらっしゃいます。財団にとって柱となる事業の一つである在宅ケアの分野について、ご自身の経験を活かし財団においてどういった課題を掲げて活動してきたのでしょうか。

中村　私は竜部会長と同期で、同じ千葉大医学部の第２外科に入局、研究室も同じでした。しかし教授の指示で昭和58年４月から、公立病院に赴任し、そこで在宅医療を始めたことで、教室内からは非難を受けました。在宅医療は当時ポピュラーでなく、しかも外科医がそんなこと、と言われ、実は自分も同じ気持ちでした。でも、当時千葉の病院で自分が手術をした患者さんが退院後に容体が悪化し、家族が往診を依頼してきた時、勤務していた病院から往診は断るよう指示され、その後、その患者さんが亡くなったと聞き、本当に申し訳ないことをしたという思いがあったんです。

訪問診療は家族も変えていく

中村　当時まだ訪問診療という言葉もなかったのですが、院長として赴任した房州の公立病院で地域住民の依頼に答えて往診を始めたばかりの頃、ある家へ出向くと、外から声をかけても返事もなく、お勝手口から入ったら、裸電球が１本垂れた納戸に、お年寄りが一人、寝かされていました。その背中に手を回すと、指先にぬるっとした感触があって、驚いて手を引っ込めたら、指先からぼろっとウジ虫が落ちたんです。それから、自分が赴任した以上はこの地域を放っておけないと、まだ39歳と若かった私は、逆に火がつきました。看護部に呼び掛け賛同したナースたちが当番制で訪問看護するようにした１カ月後、その家に往診に行くと、お年寄りは陽当たりのいい部屋へ移され、布団ももちろん替えられて、以前は反応がほとんどなかったのに、にこにこして私を待っていた。何よりも、その家のお嫁さんがちゃんと私を出迎えてくれた。他人が家に入り込むということは、患者さんだけでなく家族の心も変えていくという印象を、強く持ちました。それからは１回きりの往診でなく、継続療養のための訪問診療、訪問介護が絶対に必要だと考えました。

　また、同時に市からの依頼で、退院後に寝たきりになる患者をカバーするため、我々は市の保健婦と一緒に、患者宅を訪問しました。当時の千葉日報の記事がきっかけとなり、周りの市町村からも依頼が非常に増えました。在宅医療の必要性を自分なりに理解して、積極的に推し進めた結果、地域のいろいろな人たちが協力してくれました。そういったことで、財団から私にもお声がかかりました。

大澤　お若い頃の鮮烈な体験から在宅ケアに取り組み、財団ではいろいろな研修会などを実施されています。

中村　研修会では地域包括ケアを焦点に、その当時話題になっていた、あるいは話題にしたかったものをテーマに、研修会を計画させていただきました。医療的ケア児を含めた在宅ケアへの支援対策としての講演、あるいはパネルディスカッションなどには、かなり多くの方たちが参加されたという印象を持っております。

千葉から移植医療の芽が育っていってほしい

移植で助かる人が、確かにいる

大澤　財団の事業のもう一つの大きな柱が臓器移植部会です。竜部会長は2005年から2011年まで副部会長、2012年から現在までは部会長として、臓器移植部会をけん引してこられました。

竜　私が中村理事と同期だった、千葉大医学部第２外科では、私が入局した頃から臓器移植が盛んで、全国から患者さんが来て、亡くなった方からの腎移植を積極的に推進していました。私は、がんの専門医として勤務していて、移植医療に関わってはいませんでしたが、移植は確かに、一般医療として非常に有効だという実感はすごく持っていました。千葉労災病院長だった深尾先生や、千葉東病院にいた剣持先生に続いて、移植を推進できる者として、私に白羽の矢が立ったと思うんですね。実際に移植部会を引き受けて、体験者やシンポジウムの講師のお話、皆さまのご努力などを聞くたび、やはり移植は大事な医療であり、千葉はもともと日本の移植医療の発祥の地でもある以上、今後ますます推進しなければと強く思っています。

在宅医療に関して、がん医療は退院後のケアも大事で、そこがうまくいかなければ、治る患者さんも治す手術ができない。そんなことを感じて新設された柏の国立がんセンターに赴任した時、日本で初めて緩和ケア病棟ができて、緩和ケアから在宅医療に移る流れができたと感じました。それで私は、病院経営上からも患者さんを守る立場からも在宅ケアが重要だとの、考えを強く持つようになりました。

大澤　皆さまご多忙な中、この30年間、数多くの市民公開講座や出前講座を開催されています。

竜　教育は絶対に必要なので、大学や看護学校、高校で学生のうちから移植について教育しようと。そういう学生がやがて、移植を理解する医師や、医療従事者になってほしいという思いで、出前講座をずっと続けています。この千葉から、移植医療の芽がさらに大きくなっていけばと期待しています。

移植医療の課題に働きかけたい

大澤　臓器移植部会で副部会長を務め、NPO法人「脳死移植を推進する会」理事長として活

動を行う川越副部会長には、日本の臓器移植の現状について教えていただきたいと思います。

川越　日本の臓器移植は、臓器移植法案が改正されて、形は大きく変わりましたが、移植医療自体の数は、ほとんど変わっていません。心臓停止後の移植が、脳死移植に置き換わっただけ。実は私自身も救急専門医で、移植よりも命を助ける方に力を使っていましたが、たまたまコロンビア大学の加藤先生という臓器移植の教授とご縁があって、生後数カ月の赤ちゃんから、自費で渡米して肝臓移植をされた大人の方まで、数多くの移植の事例を見る中で、なぜこの手術を日本ではできないのかと思っていました。ちょうどその頃、臓器移植法案が改正される時で、脳死による臓器移植を何とか推進させたいとＮＰＯ法人を立ち上げました。そこに財団からお声がかかり、私は県医師会の役員でもあったので、財団の臓器移植部会に携わらせていただきました。自分のＮＰＯでは移植に関わる脳外科、麻酔科、小児外科、全ての医師が集まる講演会を開き、財団幹部にも参加していただいてレシピエント、ドナー、いろいろな方に講師を務めてもらいました。その内容を、財団の方にもフィードバックできたと思います。

大澤　日本の移植手術のレベルは世界でもトップクラスで、県内でも財団や医療従事者が一生懸命取り組んでいても、まだまだ実施数は伸び悩んでいる状況です。

川越　世界で一番多く移植を行うスペインでは、臓器提供に反対するアクションを起こした人以外は全て移植の対象にする「オプティングアウト」という制度です。日本も親の同意で子どもの移植が可能になるなど、少しずつ前進していますが、死んだ体を傷つけることは嫌だという気持ちを、多くの日本国民は持っているのだと思います。臓器がほかの人の体で役に立つ、その人の体で一緒に生きていくという考えに少しずつ変わっていくよう、働きかけが必要だと思います。

超高齢化、コロナ禍…財団の使命を考える

医療福祉の視点で見た財団

大澤　竜部会長はNPO法人「医療福祉ネットワーク千葉」の理事長として、在宅ケア・臓器移植の両分野で長年財団と携わってこられました。

竜　第１回のシンポジウムは、日野原先生を講師に「老いへの順応か、挑戦か」というテーマでした。生きていることに対しての順応か挑戦か、どんな状態も受け入れ順応しつつ、その人らしく生きる、いつも弱者にフォーカスをあてていくことが、この財団の設立当初からの精神だと思います。時代が変わっても、高齢者も若い人も、手を携えていけるよう、全力を尽くしたいと思っています。

大澤　ご自身も医師として、がんなどの終末期医療に長く携わってこられました。「医療福祉」の視点から、財団の事業についてどうお考えですか。

竜　私が在宅ケア部会に携わってからは、特にがん患者さんが地域でも十分に充実した生活ができるよう、いろいろな角度から考えた活動を行ってきました。がんもだいぶ治るようになりましたが、治らなくても、別に敗者じゃないんですよね。負けたわけじゃないので、この在宅ケアの推進の為に多職種連携やＩＴを活用して、十分生ききるまで社会全体で支えていこう、という風潮を作っていきたい。最近はコロナ感染拡大で入院しにくい環境なので、ターミナルの人は入院せず、こちらが訪問に行くからできるだけ家にいようよという流れです。みんなで在宅で楽しく、それこそ枕元でワインなど飲みながら患者のケアをしている家もありま

す。亡くなるということを、そんなふうに変えていけたらと思います。

在宅医療に欠かせない医療器具の貸し出し

平山　財団について語る上で、大きな思いがあるのは人工呼吸器の貸し出しです。利用者はALSの患者さんが多いのですが、一生を機械に縛られて過ごすんですね。それでも病院から帰りたい、在宅に切り替えたいという希望があって、ALS協会の川上純子さんたちが運動していましたが、知事の決断が非常に早かった。また、たくさんのところからお金が集まって、在宅医療のための大変高価な人工呼吸器を、県で貸し出しできるようになったんです。その後、国で制度化されても、やめてしまった県がほとんど。千葉県は現在も続いている。素晴らしいことですね。家族の誰かが人工呼吸器をつけると、介護をする人は働きにも出られず、長期間続くとその家庭が貧困化していく。千葉県では、吸引器などの医療器具も必要に応じて支援するなど、あったかい気持ち、地域性、県民性のようなものがあるんですね。やはり基本は地域のみんなの助け合いなのだと思います。

コロナ禍における病院建築の課題

大澤　2020年から新型コロナウイルスの感染拡大に国内はもとより世界中が震撼する事態が続いています。この未曽有の状況下で、財団の果たすべき役割はどんなことだとお考えですか。

平山　病院の建築上の欠点として、感染症の患者を受け入れる場合、全く清浄な区域と、感染の可能性のある区域を、建築的に区別するのは難しく、そういった設備を取り入れてこなかった。今はクラスターが老人福祉施設で起こっていて、病院建築が大きな課題だと感じています。感染者とそうでない患者とをはっきり区別できる施設や設備を持った建築が、今後は求められていくと思います。

竜　感染症病床があっても院内のエアファンが一緒だったり、設備が共有だったりとなかなか難しい。相当お金がかかりますが、そこからやらないと。

大澤　報道の立場から申し上げると、コロナ禍に対する県民の関心は非常に高いです。また、高齢者社会の中で、健康に対する情報への関心も非常に高い。財団の30年の歩みは、行政の一歩先行く、行政が手をつけにくい課題に取り組まれてきたことに頭の下がる思いですし、今後も財団の役割はさらに大きくなっていくと感じます。

保健医療分野の未来へ向けて

大澤　では最後に、次なる40周年、50周年に向けて、財団とその活動について、皆さまそれぞれの展望や思いをお聞かせください。

中村　今までのあゆみを大事に、弱者に対する思いやり、対応を常に頭に置いていかなければならないのではないか、細かいことまで関心を持って対応していく姿勢でいてほしいなと感じます。

竜　地域の支え合いには、もう二つ、三つの工夫や意識改革も必要です。それがベースになって、家で孤独死をしない社会を築くために、財団はいろいろな情報を発信して、具体的なことも提案していきたいと思っています。

川越　移植部会としては現在、腎移植の検査補助、講演会を開くなどしていますが、その参加人数もあまり多いわけでもない。毎回、同じような顔ぶれで講演会を開いていても前に進みませんし、何か革新的なことを考えていかなければならない気がしています。

また、新型コロナ感染拡大について、この状況は明らかに厚労省の医療政策の間違いだと思っています。病床を減らし、結核病棟や保健所、准看護師をなくし、医療をどんどん小さくしておいて、その医療の器に入らなかった人が自宅やホテルで亡くなり、それは医療崩壊じゃなくて、医療の器に入れなかっただけで、その小さな器を作ったのは厚労省だし、日本の政府です。それを「間違っている」と誰も言わないのは、私はおかしいと思っています。ぜひ報道でもそろそろ「そういうことも、あるんじゃないの？」くらいは言っていただいていいと思っています。

大澤　メディアへのお叱りを受け止めさせていただいて、さっそく現場の方にはこういう声があったと伝えたいと思います。

山崎　財団設立時は、とりあえず腎バンクだけ作って、それから３～４年後でもいいのではと思っていましたが、その後、だんだん県の財政も厳しくなり、資金があった平成２年、３年に立ち上げられて非常によかったと思います。大変いいお仕事をされた松沢部長ももう亡くなられて、お会いすることもできませんが、あの頃、私は反対こそしなかったものの、あまり手助けできなかった。勉強不足でしたと謝りたいですね。

臓器移植推進の気運を作るために

竜　正しい医療情報の提供の上で、移植でなければ治らない人たちには、みんなで移植を推進しようという気運を作っていきたい。私は若い頃に人工呼吸していて、私の手を止めたらこの人が死ぬんだなあと思ったことがあります。助けるためにやっていたことを、あきらめて死に至るのを見るのはすごく辛い。脳死になりますと、そこはさらにもっと辛い。

川越　救命医が一番恐れるのは、移植をするために手を抜いているのでは？と言われること。もちろんそんな救命医はいないと信じていますし、そこを一般の方々に理解していただくのも大事だと思います。

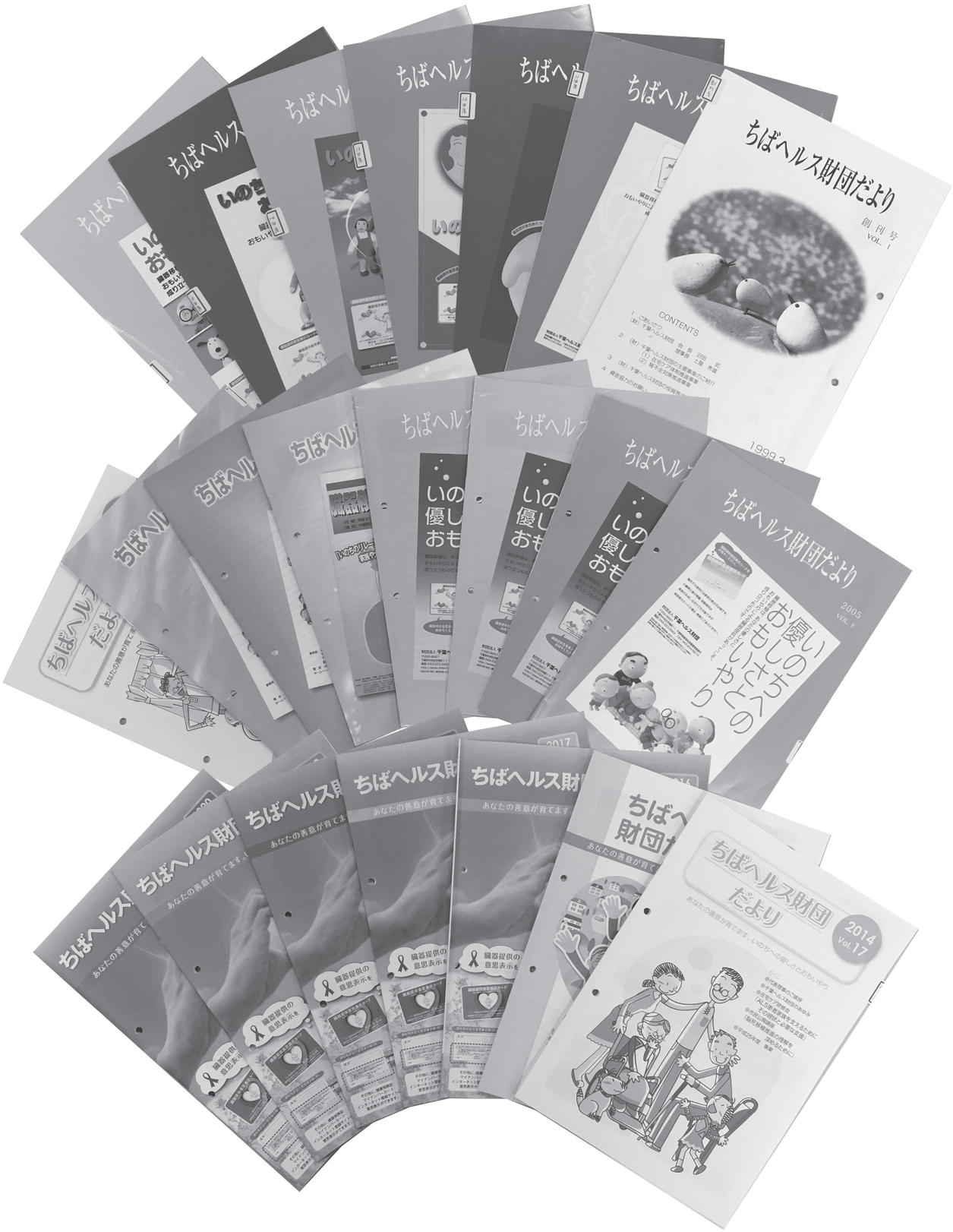
大澤　運転免許証の裏に、臓器移植の意思について記入欄がありますが、もう少し国もPRしてもいいのではないかと思いますね。

川越　臓器移植に反対する議員さんも多いので、国も辛いところだと思います。ただ、反対すること、提供しないということも尊重しなければいけない。また、臓器提供する人に陰口を言うような風潮も絶対にいけないことだし、堂々と、うちの家族は移植提供したヒーローです、と言えないといけないんです。とにかく、移植部会としてはやはり移植に対する県民や市民の意識をもう一歩前に進めたい。そのためにできることを日々考えていきたいと思っています。

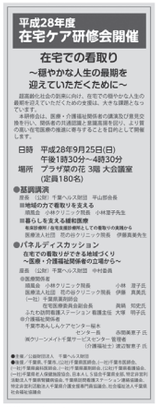
平山　病気や貧困は世界的な問題で、みんなで助け合い協力しあうことが大事と思います。千葉県民は温かい方が多いので、ご支援をいただきながら、様々な問題に対処していきたいと思います。

大澤　本日はご多忙の中、さまざまな体験、思い出、貴重なご意見をうかがえました。本当にありがとうございました。

千葉ヘルス財団だより


ちばヘルス財団だより
創刊号
VOL. 1
CONTENTS
1999.3
ちばヘルス財団だより
2005
VOL. 8
優しいのちへのおもいやり
ちばヘルス財団だより
2014
Vol.17
あなたの善意が育てます

千葉日報　特集記事



平成28年度
在宅ケア研修会開催

在宅での看取り
～穏やかな人生の最期を迎えていただくために～

超高齢化社会の到来により、在宅での穏やかな人生の最期を迎えていただくための支援は、大きな課題となっています。
本講演は、医療・介護福祉関係者の講演及び実践発表を通じ、より安心して在宅医療の推進に寄与することを目的として開催します。

日時　平成28年9月25日(日)
午後1時30分～4時30分
場所　プラザ菜の花 3階 大会議室
(定員180名)

●基調講演
医系（公財）千葉ヘルス財団　平山部会長
地域ぐるみで看取りを支える
関東会（小林クリニック西船　小林潔子先生
暮らしを支える緩和医療
～地域単位の「在宅医療」～
医療法人社団　悠の会クリニック院長　伊藤真美先生

●パネルディスカッション
在宅での看取りができる地域づくり
～医療・介護福祉関係者の立場から～
座長（公財）千葉ヘルス財団　中村会長
全国病院協会
関東会　小林クリニック船橋　小林　潔子氏
医療法人社団　悠の会クリニック院長　伊藤　真美氏
（一社）千葉県薬剤師会
在宅医療薬局会副会長　真鍋　知宏氏
ふたば訪問看護ステーション 看護主任　大塚　明子氏
谷口接骨院院長
千葉市あんしんケアセンター稲丘
センター長　赤間真美子氏
神クリーンメイト千葉サービスセンター 管理者
（介護福祉士）渡辺智恵子氏

●主催／公財財団法人 千葉ヘルス財団
●後援／千葉県、千葉市、(公社)千葉県医師会、(社)千葉県看護協会、(一社)千葉県薬剤師会、(公社)千葉県理学療法士会、(公社)千葉県作業療法士会、(公社)千葉県言語聴覚士会、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、特定非営利活動法人千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

●お申し込み・お問い合わせ
公益財団法人 千葉ヘルス財団
〒260-8667　千葉市中央区市場町 1-1
TEL：043-223-2663

「保健」「医療」「福祉」の連携が重要

千葉ヘルス財団理事　中村　宏医師に聞く

在宅ケアの一環として、千葉市内の医療関係者が集まり、「地域ぐるみで看取りを支える」をテーマに、「暮らしを支える緩和医療」、「パネルディスカッション」などを開催する。「在宅での看取りができる地域づくり～医療・介護福祉関係者の立場から～」をテーマに、千葉ヘルス財団理事の中村宏医師に聞く。

在宅医療は地域づくり

―在宅医療に取り組むようになったきっかけは？

中村　1988年、39歳で「船橋市立医療科学院」設立に伴い、在宅医療に関心を寄せるようになった。当時は、家族の介護負担が大きく、家族に対する支援が必要だと感じた。また、訪問看護の職員が足りず、看護師がいろいろな役割を担っていた。看護師の職務を明文化し、職務の明確化を図ることが大切だと考えた。そこで、看護師の職務を明文化し、職務の明確化を図ることが大切だと考えた。そこで、看護師の職務を明文化した。患者が病院に来ることなく、病院の医師や看護師が患者の家を訪問する、訪問看護の職務を明文化した。

―当時は訪問看護ステーションが在宅医療に取り組む人たちが多くの出会いがあり、「つながり」をキーになるのが在宅医療だと考えていたのですね。

中村　1988年、39歳で「船橋市立医療科学院」設立に伴い、在宅医療に関心を寄せるようになった。当時は、家族の介護負担が大きく、家族に対する支援が必要だと感じた。また、訪問看護

患者の人生に寄り添いたい

千葉ヘルス財団
企画委員会在宅ケア部会委員　権平くみ子会長に聞く

在宅の「みとり」で、患者と向き合う

権平会長は、千葉市訪問看護ステーション協会の事務局を務める看護協会ちば訪問看護ステーションの所長を兼務する緩和ケア認定看護師で、在宅医療のコーディネーターとして、患者や家族の「生活の質」を高めるケアを行っている。

―在宅医療に携わるきっかけは

権平　医師会協会のお手伝いをしていて、「患者の入口」に関わるのが在宅医療・患者のQOL（クオリティー・オブ・ライフ、生活の質）向上が、訪問看護の真の目的であるとの気づきを得たことが最大のきっかけです。

―日本の医療制度について

権平　現状の医療制度は、明らかな問題があります。年齢を高齢化、核家族化が進み、老老介護、独居の利用者も増えている。

医療の面では、「病気でなくなる」ことが最優先されてしまう。医療機関の中で、患者の人生に寄り添うことは難しい。

―小児患者の看護についてはいかがでしょうか

権平　人工呼吸器や経管栄養、人工透析などの医療的ケアを必要とする小児患者の数は、ここ10年で2倍以上に増えています。医療的ケアを抱えながら、家族の一員として、地域の中で生活することが、その子の人生の質を高めることになります。

―個々の患者の人生にしっかりと寄り添いたいとのことですが、具体的にどのようなことを心がけていらっしゃいますか

権平　時間は短いが、患者さんの話をじっくり聞くこと。患者さんの人生の中で、どこで医療のかかわりをもつのか、どこに行けばよいのか、どこに相談すればよいのかを、患者さんと一緒に考えること。患者さんの生活を支えるために、訪問看護ステーションの所長として、在宅医療の現場で、かつ、ご家族の方の話を聞いてあげることが、患者さんの人生の質を高めることになると考えています。

―国や県の施策はどうあるべきだと思いますか

権平　在宅医療の方針は、ここ10年ほどで、ずいぶんと変わってきました。国は、医療費の抑制のために、医療機関の機能分化を進めています。病院の役割は、高度な医療を必要とする患者さんを受け入れ、その後は、地域の医療機関や、訪問看護ステーションなどに、患者さんを引き継いでいくことが、今後、ますます、重要になってくると思います。

―今後の展望について

権平　地域の医療・介護・福祉の連携を強化するために、訪問看護ステーションを拠点とした、地域の人々、一人一人の人生の質を高めるケアを、今後も、続けていきたいと思っています。

平成30年度
在宅ケア研修会開催

医療的ケアを必要とする子どもや家族が普通の生活を送るために

超高齢化社会の到来に向け、在宅での療養や安心人生の最期を迎えたいなどの思いが高まっています。
本研修会は、医療・介護福祉関係者の講演及び意見交換を行い、関係者の共通認識と意識高揚を図り、より質の高い在宅医療の実践に資することを目的とします。「理解」です。

日時　平成30年9月23日(日)
午後1時30分～4時30分
場所　プラザ菜の花 3階 大会議室
入場無料(先着180名)

◎基調講演
※在宅クリニックがはじめるキッズケア
～地域包括ケアシステムを見据えて～
オレンジホームケアクリニック代表
在宅医療専門医　松田 浩之 先生
※「医療的医療的ケア児への支援の現状と課題」
千葉県　千葉リハビリテーションセンター
療育医師　第一小百利　部長　石井 光子 先生
※小児在宅歯科医療
～在宅療養中の子供達に歯科医療を～
医療法人社団　瑞祥会　いいつか歯科
クリニック院長　飯塚 真司 先生

◎パネルディスカッション
適切な地域支援の実現に向けて
～その役割と連携～
●在宅訪問看護
訪問看護ステーションひとみ
管理者　看護師　小笠山 日登美 氏
さがいリハ訪問看護ステーション・千葉
主任　理学療法士　白木 秀和 氏
●公認理学療法士
千葉県千葉リハビリテーションセンター
相談支援専門員　佐藤 郁夫 氏
●医療的ケアを必要としている家族
野田 玲子、匠 樹
※パネリストの役表及び参加者との意見交換

●後援／公益財団法人　千葉ヘルス財団
●後援／千葉県、千葉市、(公社)千葉看護協会、(一社)千葉市看護協会、(一社)千葉県歯科医師会、(公社)千葉県薬剤師会、(一社)千葉県理学療法士会、(一社)千葉県作業療法士会、(一社)千葉県言語聴覚士会、(一社)日本ALS協会千葉県支部、特定非営利活動法人千葉県難病相談・支援センター、(一社)千葉県訪問看護ステーション協会、特定非営利活動法人千葉県介護支援専門員協議会、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

●お申し込み・お問い合わせ
公益財団法人 千葉ヘルス財団
〒260-8667　千葉市中央区市場町 1-1
TEL：043-223-2663

2018 年 9 月 11 日付
権平くみ子委員

移植医療への啓蒙に尽力

（公財）千葉ヘルス財団

在宅ケアで希望を持ち人生を全うできる世の中に

公財）千葉ヘルス財団
職器移植部会会長/在宅ケア部会副部会長　竜崇正氏に聞く

千葉ヘルス財団は1991年に設立された、官民一体の公益財団です。医療・福祉の事業として、在宅ケアや職器移植の啓蒙、臓器移植の普及啓発などに取り組んでいます。千葉がん予防センター、在宅がん予防財団、臓器移植推進センター、在宅がん予防財団会長兼理事の金澤伸夫氏、クリニック院長・竜崇正氏（70）に財団設立の歩みと今後の展望などを聞いた。

臓器移植が遺族の生きがいに

―千葉ヘルス財団での役割は

竜崇　自財団では毎月医療を行わなければならないが、あるいは後天的に難病に陥り、医療が無用になってしまう患者さんがいらっしゃいます。私は会長として、自分のクリニックを作り、慣れた地域で安心して暮らせる社会のシステムづくりを目指しています。

―職器移植事業に携わるきっかけは

竜崇　私は開業医として在宅ケアに取り組んでいます。患者さんと向き合ってきたなかで、千葉県は、臓器移植の普及啓発に取り組んでいる。私は会長として、臓器移植の啓蒙に尽力しています。

―国や県の施策はどうあるべきだと思いますか

竜崇　在宅医療は、医師だけでなく、看護師、薬剤師、ケアマネジャーなどの多職種が、チームとなって、患者さんの生活を支えるシステムを作っていくことが、大切だと思います。

―在宅ケアについては

竜崇　在宅医療の現場は、医師だけでなく、看護師、薬剤師、ケアマネジャーなどの多職種が、チームとなって、患者さんの生活を支えるシステムを作っていくことが、大切だと思います。

―在宅医療の現状は

竜崇　在宅医療の現場は、患者さんの家族が、高齢者が多くなり、データ共有化による医療のレベルも飛躍的に上がり、患者さんは安心して、医療を受けられるようになりました。

―職器移植が遺族の生きがいとなっているとのことですが、人間は誰しも、いつかは死にます。人の死を、どう考えていらっしゃいますか

竜崇　人の生きがいは、人のために、どれだけ、役に立てるかだと思います。人の死を、どう考えるかは、難しい問題ですが、私は、人の死は、遺族の生きがいとなっていると考えています。

―遺族の生きがいとなっているとのことですが、人の死を、どう考えていらっしゃいますか

竜崇　人の死は、誰しもが、いつかは、迎えなければならない

千葉ヘルス財団　年表

年　月　日	事　　項	備　　考
平成3年度		
6月1日	財団設立（基金目標額5億円）	
6月11日	第1回理事会	京成ホテル
6月28日	設立披露会	ニューツカモト
7月16日	第1回腎バンク部会	京成ホテル
7月17日	第1回在宅医療部会	京成ホテル
8月6日	第2回腎バンク部会	京成ホテル
8月27日	第2回在宅医療部会	京成ホテル
9月18日	腎臓提供あっせん業許可取得	
9月24日	腎移植関係医療機関連絡調整会議	京成ホテル
10月6日	腎移植推進月間街頭キャンペーン	
10月21日	臨時理事会	京成ホテル
11月16日	在宅医療にかかる研修会	千葉県医療センター
11月17日	腎臓病を考える集い	スズケンホール
12月24日	第3回在宅医療部会	千葉県自治会館
1月14日	第3回腎バンク部会	京成ホテル
1月28日	第4回在宅医療部会	千葉県自治会館
2月29日	在宅医療シンポジウム	
3月26日	第2回理事会（基金目標額を6億に変更他）	
平成4年度		
	在宅医療(ケア)調査研究事業(助成)	
	在宅医療(ケア)システム作り事業(助成)	
	在宅医療(ケア)システム事業	
	在宅医療にかかる研修会	
	在宅医療シンポジウム	
	在宅医療に関する作文･標語の募集	
	在宅医療にかかる実態調査	
	在宅医療にかかる情報の収集	
	在宅人工呼吸器療法の高額医療機器貸与事業	
	終末期医療にかかる研修会	
	組織適合性検査費用の助成	
	腎移植推進月間街頭啓発講演会	
	移植コーディネーター連絡会議	
	透析患者実態調査	
7月2日	臓器移植関係機関連絡調整会議	国保松戸市立病院
10月16日	腎臓病を考えるつどい	千葉市文化センター
平成5年度		
	在宅医療(ケア)調査研究事業(助成)	
	在宅医療(ケア)システム作り事業(助成)	
	在宅医療(ケア)システム事業(助成)	
	在宅医療にかかる研修会	
	在宅医療シンポジウム	
	在宅人工呼吸器療法の高額医療機器貸与事業	
	臓器移植推進月間街頭キャンペーン	
	移植コーディネーター連絡会議	

年　月　日	事　　項	備　　考
平成5年度		
２月15日	臓器移植関係機関連絡調整会議	国保君津中央病院
３月２日	第３回在宅医療部会	千葉県自治会館
３月４日	第３回腎バンク部会	千葉県職員会館
平成6年度		
	在宅医療にかかる研修会	
	在宅医療シンポジウム	
平成7年度		
	腎移植関係医療機関連絡調整会議	
	在宅医療にかかる研修会	
	在宅医療シンポジウム	
平成8年度		
７月16日	第１回在宅医療部会	千葉県自治会館
７月24日	第１回腎バンク部会	千葉県自治会館
8月～3月	平成８年度がん検診による精密検査結果評価事業	（県からの受託事業）
	腎移植関係医療機関連絡調整会議	
	在宅医療にかかる研修会	
11月12日	第２回在宅医療部会	千葉県教育会館
２月13日	第２回腎バンク部会	千葉県教育会館
２月17日	第３回在宅医療部会	千葉県教育会館
平成9年度		
５月14日	第１回理事会	青雲閣
６月14日～15日	県民健康づくり普及啓発事業	幕張メッセ展示ホール
７月30日	第１回企画委員会在宅医療部会	千葉県教育会館
８月11日	第１回企画委員会腎バンク部会	千葉県教育会館
10月５日	臓器移植街頭キャンペーン	JR8駅頭京成2駅頭
10月26日	第10回腎臓病を考える会	千葉県教育会館
11月４日	第２回企画委員会在宅医療部会	千葉県教育会館
11月７日	第２回企画委員会腎バンク部会	千葉県教育会館
11月21日	在宅医療研修会	木更津市市民会館
12月19日	腎移植関係医療機関連絡調整会議	千葉県救急医療センター
２月13日	在宅ケア講演会	千葉県教育会館
２月23日	第３回企画委員会腎バンク部会	千葉県教育会館
３月３日	第３回企画委員会在宅医療部会	千葉県教育会館
３月20日	第２回理事会	千葉県文化会館
平成10年度		
５月27日	第１回理事会	青雲閣
６月13日～14日	県民健康づくり普及啓発事業	幕張メッセ展示ホール
７月29日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
７月31日	第１回企画委員会腎バンク部会	プラザ菜の花
10月４日	腎移植推進街頭キャンペーン	JR8駅頭京成1駅頭
11月13日	第２回企画委員会在宅ケア部会	プラザ菜の花
11月13日	第２回企画委員会腎バンク部会	プラザ菜の花
11月16日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
１月19日	在宅ケア講演会	千葉市文化センターホール

年　月　日	事　　項	備　　考
平成10年度		
１月22日	腎移植関係医療機関連絡調整会議	千葉県循環器病センター
２月14日	第11回腎臓病を考える会	千葉市民会館
２月23日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉京成ホテル
２月23日	第３回企画委員会腎バンク部会	千葉京成ホテル
３月10日	ちばヘルス財団だより創刊号（VOL．１）発行	（3000部）
３月12日	第２回理事会	グリーンタワーパレス千葉
平成11年度		
５月25日	第１回理事会	グリーンタワーパレス千葉
６月12日～13日	県民健康づくり普及啓発事業	幕張メッセ展示ホール
７月27日	第１回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
７月27日	第１回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
８月30日	ちばヘルス財団だよりVOL.２発行	（3000部）
９月28日	腎移植関係医療機関連絡調整会議	千葉京成ホテル
10月３日	腎移植推進街頭キャンペーン	JR8駅頭京成2駅頭
10月24日	第12回腎臓病を考える会	千葉市民会館
11月24日	第２回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
11月24日	第２回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
12月３日	在宅ケア研修会	ポートプラザちば
２月４日	在宅ケア講演会	ポートプラザちば
２月17日	第３回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
２月17日	第３回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
３月17日	第２回理事会	ポートプラザちば
平成12年度		
５月29日	第１回理事会	ポートプラザちば
６月10日～11日	県民健康づくり普及啓発事業	幕張メッセ展示ホール
６月21日	第１回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
６月26日	第１回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
８月31日	ちばヘルス財団だよりVOL.３発行	（3000部）
９月20日	第２回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
９月20日	第２回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
10月８日	腎移植推進街頭キャンペーン	JR8駅頭京成2駅頭
10月29日	第13回腎臓病を考える会	ぱるるプラザ千葉
12月11日	在宅ケア研修会	ポートプラザちば
１月17日	腎移植関係医療機関連絡調整会議	ポートプラザちば
２月28日	在宅ケア講演会	ポートプラザちば
３月２日	第３回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
３月２日	第３回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
３月26日	第２回理事会	ポートプラザちば
平成13年度		
５月21日	第１回理事会	県庁中庁舎
６月９日～10日	県民健康づくり普及啓発事業	幕張メッセ展示ホール
７月10日	第１回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
７月10日	第１回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
８月31日	ちばヘルス財団だよりVOL.４発行	（3000部）

年　月　日	事　　項	備　　考
平成13年度		
9月6日	第2回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
9月6日	第2回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
10月7日	腎移植推進街頭キャンペーン	JR7駅頭京成2駅頭
10月14日	第14回腎臓病を考える会	千葉県教育会館
12月7日	在宅ケア研修会	千葉市総合保健医療センター
12月7日	臓器移植推進講演会	総合病院国保旭中央病院
3月4日	第3回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
3月4日	第3回企画委員会腎バンク部会	ポートプラザちば
3月13日	在宅ケア等講演会	ポートプラザちば
3月26日	第2回理事会	県庁中庁舎
平成14年度		
5月24日	第1回理事会	県庁中庁舎
6月13日	第1回企画委員会在宅ケア部会	県庁中庁舎
6月13日	第1回企画委員会臓器移植部会	県庁中庁舎
8月31日	ちばヘルス財団だよりVOL.5発行	(4000部)
9月4日	第2回企画委員会在宅ケア部会	ポートプラザちば
9月4日	第2回企画委員会臓器移植部会	ポートプラザちば
10月6日	臓器移植普及推進街頭キャンペーン	JR7駅頭京成2駅頭
10月27日	第15回腎臓病を考える会	ぱるるプラザ千葉
11月15日	臓器移植推進講演会	東京歯科大学附属市川総合病院
3月7日	在宅ケア研修会	千葉県東葛支庁
3月12日	第3回企画委員会在宅ケア部会	新都市ビル
3月12日	第3回企画委員会臓器移植部会	新都市ビル
3月26日	第2回理事会	県庁中庁舎
平成15年度		
5月20日	第1回理事会	県庁中庁舎
7月9日	第1回企画委員会在宅ケア部会	議会棟会議室
7月9日	第1回企画委員会臓器移植部会	議会棟会議室
9月9日	第2回企画委員会在宅ケア部会	議会棟会議室
9月9日	第2回企画委員会臓器移植部会	議会棟会議室
9月9日	臓器移植医療の推進を図る講和	議会棟会議室
9月30日	ちばヘルス財団だよりVOL.6発行	(4000部)
10月1日	千葉ヘルス財団ホームページの開設	
10月5日	臓器移植普及推進事業街頭キャンペーン	JR7駅頭京成2駅頭
10月26日	第16回腎臓病を考える会	ぱるるプラザ千葉
1月21日	在宅ケア研修会	千葉市総合保健医療センター
3月4日	第3回企画委員会在宅ケア部会	県庁南庁舎
3月4日	第3回企画委員会臓器移植部会	県庁南庁舎
3月23日	第2回理事会	ポートプラザちば
平成16年度		
5月21日	第1回理事会	プラザ菜の花
6月30日	第1回企画委員会在宅ケア部会	プラザ菜の花
6月30日	第1回企画委員会臓器移植部会	プラザ菜の花
9月13日	第2回企画委員会在宅ケア部会	プラザ菜の花
9月13日	第2回企画委員会臓器移植部会	プラザ菜の花
9月30日	ちばヘルス財団だよりVOL.7発行	(4000部)
10月3日	臓器移植普及推進事業街頭キャンペーン	JR7駅頭京成2駅頭
10月31日	第17回腎臓病を考える会	ぱるるプラザ千葉

年　月　日	事　　項	備　　考
平成16年度		
12月11日	在宅ケア研修会	千葉県南総文化ホール
３月７日	第３回企画委員会在宅ケア部会	プラザ菜の花
３月７日	第３回企画委員会臓器移植部会	プラザ菜の花
３月16日	第２回理事会	ポートプラザちば
平成17年度		
５月25日	第１回理事会	県庁中庁舎
７月26日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
７月26日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
９月27日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月27日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
10月２日	臓器移植普及推進事業街頭キャンペーン	JR６駅頭京成２駅頭
10月30日	第18回腎臓病を考える会	ぱるるプラザ千葉
11月	ちばヘルス財団だよりVOL.8発行	(3000部)
１月21日	在宅ケア研修会	佐原市中央公民館
１月23日	臓器移植関係医療機関連絡調整会議	プラザ菜の花
３月14日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
３月14日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
３月22日	第２回理事会	プラザ菜の花
平成18年度		
５月24日	第１回理事会	県庁中庁舎
６月20日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
６月20日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
７月２日	市民公開講座	プラザ菜の花
９月26日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月26日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
10月１日	臓器移植普及推進事業街頭キャンペーン	JR６駅頭京成1駅頭
10月１日	ちばヘルス財団だよりVOL.９発行	(3000部)
10月29日	第19回腎臓病を考える会	ぱるるプラザ千葉
１月21日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
３月13日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
３月13日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
３月20日	第２回理事会	県庁中庁舎
平成19年度		
６月19日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
６月19日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
６月26日	第１回理事会	千葉県庁
７月８日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
９月26日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月26日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
10月７日	臓器移植街頭キャンペーン	JR６駅京成１駅頭
10月28日	第20回腎臓病を考える会	千葉市文化交流プラザ
１月19日	在宅ケア研修会	千葉県教育会館
1月	ちばヘルス財団だより(vol10号)発行	(2000部)
３月11日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
３月11日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
３月18日	第２回理事会	千葉県教育会館

年　月　日	事　　項	備　　考
平成20年度		
６月17日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
６月17日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
６月24日	第１回理事会	千葉県庁
７月６日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
９月30日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月30日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
10月５日	臓器移植街頭キャンペーン	JR6駅京成1駅頭
10月26日	第21回腎臓病を考える会	千葉市文化交流プラザ
１月	ちばヘルス財団だより（VOL.11号）発行	（2000部）
１月24日	在宅ケア研修会	千葉市文化センター
２月24日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
２月24日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
３月18日	第２回理事会	千葉県教育会館
平成21年度		
６月16日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
６月16日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
６月23日	第１回理事会	千葉県庁
７月５日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
９月29日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月29日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
10月	臓器移植街頭キャンペーン（インフルエンザ警報により中止）	
10月24日	第11回臓器移植推進国民大会	千葉駅ペリエホール
10月25日	第22回腎臓病を考える会	千葉市文化交流プラザ
11月	在宅ケア研修会（インフルエンザ警報により中止）	
２月	ちばヘルス財団だより（VOL.12 号）発行	（2000部）
２月20日	千葉県の臓器移植体制の推進に関する連絡会議（法的脳死判定研修会）	プラザ菜の花
３月９日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
３月９日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
３月16日	第２回理事会	千葉市ビジネス支援センター
平成22年度		
６月８日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
６月８日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
６月23日	第１回理事会	千葉県庁
９月７日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月７日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
９月12日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月	臓器移植街頭キャンペーン	
10月31日	第23回腎臓病を考える会	京葉銀行文化プラザ
２月	ちばヘルス財団だより（VOL.13号）発行	（2000部）
３月１日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
３月１日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
３月18日	第２回理事会	きぼーる
平成23年度		
６月７日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
６月13日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
６月21日	第１回理事会	千葉県庁

年　月　日	事　　項	備　　考
平成23年度		
7月3日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
9月6日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月25日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月	臓器移植街頭キャンペーン	
2月21日	第3回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
3月14日	第2回理事会	きぼーる
平成24年度		
6月5日	第1回企画委員会在宅ケア部会	千葉市文化センター
6月11日	第1回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
6月20日	第1回理事会	きぼーる
7月22日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
9月11日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月14日	第2回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
9月30日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
11月7日	臓器移植普及推進出前講座の開始	順天堂大学医療看護学部
2月19日	第3回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
3月11日	第3回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
3月	ちばヘルス財団だより(VOL.14･15号)発行	(2000部)
3月25日	第2回理事会	千葉県教育会館
3月31日	財団法人千葉ヘルス財団の解散	
平成25年度		
4月1日	公益財団法人千葉ヘルス財団の発足	
5月29日	第1回理事会	千葉県教育会館
6月11日	第1回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
6月11日	第1回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
6月19日	定時評議員会	千葉県教育会館
9月10日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月10日	第2回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
9月29日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月20日	臓器移植市民公開講座	蘇我勤労市民プラザ
2月	ちばヘルス財団だより(VOL.16号)発行	(1500部)
2月18日	第3回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
2月18日	第3回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
3月12日	第2回理事会	千葉県教育会館
平成26年度		
5月23日	第1回理事会	千葉県教育会館
6月10日	第1回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
6月10日	第1回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
6月11日	定時評議員会	千葉県教育会館
9月9日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月9日	第2回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
9月28日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月17日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
1月	ちばヘルス財団だより(VOL.17号)発行	(2000部)
2月17日	第3回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
2月17日	第3回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
3月18日	第2回理事会	千葉県森林会館

年　月　日	事　　項	備　　考
平成27年度		
5月13日	第1回理事会	千葉県教育会館
6月2日	定時評議員会	千葉県教育会館
6月9日	第1回企画委員会在宅ケア部会	千葉県森林会館
6月9日	第1回企画委員会臓器移植部会	千葉県森林会館
9月8日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県森林会館
9月8日	第2回企画委員会臓器移植部会	千葉県森林会館
9月27日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月18日	臓器移植市民公開講座	きぼーる
1月	ちばヘルス財団だより(VOL.18号)発行	(2000部)
2月16日	第3回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
2月16日	第3回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
3月18日	第2回理事会	千葉県教育会館
平成28年度		
5月12日	第1回理事会	千葉県教育会館
5月31日	定時評議員会	千葉県教育会館
6月14日	第1回企画委員会在宅ケア部会	千葉県森林会館
6月14日	第1回企画委員会臓器移植部会	千葉県森林会館
9月6日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月6日	第2回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
9月25日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月16日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
12月18日	地域在宅ケア研修会	成田赤十字病院
1月	ちばヘルス財団だより(VOL.19号)発行	(2000部)
2月14日	第3回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
2月14日	第3回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
3月17日	第2回理事会	千葉県教育会館
平成29年度		
5月9日	第1回理事会	千葉県教育会館
6月6日	定時評議員会	千葉県教育会館
6月13日	第1回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
6月13日	第1回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月2日	地域在宅ケア研修会	船橋市保健福祉センター
9月12日	第2回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
9月12日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月24日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月15日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
1月	ちばヘルス財団だより(VOL.20号)発行	(2000部)
2月13日	第3回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
2月13日	第3回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
3月14日	第2回理事会	千葉県教育会館
平成30年度		
5月11日	第1回理事会	千葉県教育会館
6月11日	定時評議員会	千葉県教育会館
6月12日	第1回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
6月12日	第1回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月11日	第2回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
9月11日	第2回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
9月23日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花

年　月　日	事　　項	備　　考
平成30年度		
10月７日	2018グリーンリボンキャンペーン千葉	千葉ポートタワー
10月14日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
11月24日	地域在宅ケア研修会	君津健康福祉センター
1月	ちばヘルス財団だより（VOL.21号）発行	（2000部）
２月12日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
２月12日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
３月15日	第２回理事会	千葉県教育会館
令和元年度		
５月13日	第１回理事会	千葉県教育会館
５月31日	定時評議員会	プラザ菜の花
６月11日	第１回企画委員会臓器移植部会	千葉県森林会館
６月11日	第１回企画委員会在宅ケア部会	千葉県森林会館
９月10日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
９月10日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月22日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月６日	2019グリーンリボンキャンペーン千葉	千葉ポートタワー
10月13日	臓器移植市民公開講座	台風により中止
11月５日	地域在宅ケア研修会	安房合同庁舎
１月	ちばヘルス財団だより（VOL.22号）発行	（2000部）
２月12日	第３回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
２月12日	第３回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
３月12日	第２回理事会	千葉県教育会館
令和２年度		
４月30日	第１回理事会	書面決議
５月22日	定時評議員会	書面決議
６月12日	第１回企画委員会臓器移植部会	書面決議
６月12日	第１回企画委員会在宅ケア部会	書面決議
９月８日	第２回企画委員会臓器移植部会	千葉県教育会館
９月８日	第２回企画委員会在宅ケア部会	千葉県教育会館
９月８日	臨時理事会	千葉県教育会館
９月13日	在宅ケア研修会	プラザ菜の花
10月	グリーンリボンキャンペーン千葉	
10月11日	臓器移植市民公開講座	プラザ菜の花
11月27日	地域在宅ケア研修会	長生健康福祉センター
1月	ちばヘルス財団だより（VOL.23号）発行	（2000部）
２月10日	第３回企画委員会臓器移植部会	書面決議
２月10日	第３回企画委員会在宅ケア部会	書面決議
３月５日	第２回理事会	書面決議

30年間の事業

在宅療養者支援事業

難病患者の在宅ケアを推進するため、その患者の治療を行っている医療機関に人工呼吸器を貸与した。
平成 14 年よりは、在宅で人工呼吸器を装着し療養する難病患者の方々に対し、日本 ALS 協会千葉支部等を通じて意志伝達装置を貸し出しました。

年度	件数	年度	件数
平成 3 年度	2 件	平成 18 年度	5 件
平成 4 年度	―――	平成 19 年度	6 件
平成 5 年度	―――	平成 20 年度	6 件
平成 6 年度	―――	平成 21 年度	6 件
平成 7 年度	―――	平成 22 年度	7 件
平成 8 年度	―――	平成 23 年度	7 件
平成 9 年度	15件	平成 24 年度	10件
平成 10 年度	14件	平成 25 年度	19件
平成 11 年度	9 件	平成 26 年度	12件
平成 12 年度	―――	平成 27 年度	14件
平成 13 年度	―――	平成 28 年度	7 件
平成 14 年度	3 件	平成 29 年度	10件
平成 15 年度	2 件	平成 30 年度	6 件
平成 16 年度	3 件	令和元年度	3 件
平成 17 年度	4 件	令和 2 年度	4 件

在宅人工呼吸器療養者支援事業

在宅で療養をし、人工呼吸器を必要とする難病患者の方々を支援するため、呼吸器、吸引器、パルスオキシメーターの人工呼吸器関連機器の取得費を助成しました。

年度	件数
平成３年度	―――
平成４年度	―――
平成５年度	―――
平成６年度	―――
平成７年度	―――
平成８年度	―――
平成９年度	７件
平成 10 年度	16件
平成 11 年度	20件
平成 12 年度	19件
平成 13 年度	12件
平成 14 年度	26件
平成 15 年度	22件
平成 16 年度	18件
平成 17 年度	９件

年度	件数
平成 18 年度	27件
平成 19 年度	26件
平成 20 年度	27件
平成 21 年度	21件
平成 22 年度	29件
平成 23 年度	21件
平成 24 年度	17件
平成 25 年度	11件
平成 26 年度	14件
平成 27 年度	４件
平成 28 年度	９件
平成 29 年度	７件
平成 30 年度	９件
令和元年度	５件
令和２年度	４件

在宅医療システム等補助事業

地域における在宅医療システムの推進を図るため、自主的に在宅医療事業の実施及び検討を行う団体に対し、経費の一部を助成しました。

年度	助成件数	年度	助成件数
平成３年度	３件	平成18年度	―――
平成４年度	―――	平成19年度	―――
平成５年度	―――	平成20年度	―――
平成６年度	―――	平成21年度	―――
平成７年度	―――	平成22年度	―――
平成８年度	―――	平成23年度	―――
平成９年度	13件	平成24年度	―――
平成10年度	８件	平成25年度	―――
平成11年度	11件	平成26年度	―――
平成12年度	―――	平成27年度	―――
平成13年度	―――	平成28年度	―――
平成14年度	―――	平成29年度	―――
平成15年度	―――	平成30年度	―――
平成16年度	―――	令和元年度	―――
平成17年度	―――	令和２年度	―――

腎バンク事業

千葉県の腎バンクとして善意の死後の腎臓提供者の登録を実施しました。

年度	登録件数	年度	登録件数
平成３年度	6770人	平成18年度	―――
平成４年度	―――	平成19年度	―――
平成５年度	―――	平成20年度	―――
平成６年度	―――	平成21年度	―――
平成７年度	―――	平成22年度	―――
平成８年度	―――	平成23年度	―――
平成９年度	―――	平成24年度	―――
平成10年度	―――	平成25年度	―――
平成11年度	―――	平成26年度	―――
平成12年度	―――	平成27年度	―――
平成13年度	―――	平成28年度	―――
平成14年度	―――	平成29年度	―――
平成15年度	―――	平成30年度	―――
平成16年度	―――	令和元年度	―――
平成17年度	―――	令和２年度	―――

臓器提供意思表示カード配布状況

腎移植の推進を図るため、関係機関等へ「臓器提供意思表示カード」を配布しました。

年度	配布枚数	年度	配布枚数
平成３年度	―――	平成18年度	66,220枚
平成４年度	―――	平成19年度	―――
平成５年度	―――	平成20年度	―――
平成６年度	―――	平成21年度	―――
平成７年度	―――	平成22年度	―――
平成８年度	―――	平成23年度	―――
平成９年度	35,000枚	平成24年度	―――
平成10年度	201,952枚	平成25年度	―――
平成11年度	59,466枚	平成26年度	―――
平成12年度	50,098枚	平成27年度	―――
平成13年度	35,295枚	平成28年度	―――
平成14年度	29,489枚	平成29年度	―――
平成15年度	32,334枚	平成30年度	―――
平成16年度	65,957枚	令和元年度	―――
平成17年度	137,081枚	令和２年度	―――

組織適合検査費助成

腎移植の推進を図るため、腎移植を希望し、日本臓器移植ネットワークに登録する場合に行う組織適合検査に要する費用の一部（1万円）を助成しました。※3年度から9年度は2万円、10年度から15年度は3万円、16年度から1万円

年度	件数	年度	件数
平成３年度	―――	平成18年度	42件
平成４年度	―――	平成19年度	34件
平成５年度	―――	平成20年度	35件
平成６年度	―――	平成21年度	43件
平成７年度	―――	平成22年度	47件
平成８年度	―――	平成23年度	46件
平成９年度	1 件	平成24年度	51件
平成10年度	1 件	平成25年度	34件
平成11年度	1 件	平成26年度	57件
平成12年度	2 件	平成27年度	36件
平成13年度	0 件	平成28年度	46件
平成14年度	0 件	平成29年度	55件
平成15年度	0 件	平成30年度	19件
平成16年度	26件	令和元年度	11件
平成17年度	31件	令和２年度	30件

臓器提供者等への謝礼

臓器提供者への感謝状及び香典（1万円）と摘出医療機関への謝礼（5万円）を行いました。
※平成20年まで香典（3万円）謝礼（10万円）

年度	贈呈数
平成３年度	―――
平成４年度	―――
平成５年度	―――
平成６年度	―――
平成７年度	―――
平成８年度	提供者３名、病院３件
平成９年度	提供者３名、病院３件
平成10年度	提供者４名、病院５件
平成11年度	提供者２名、病院１件
平成12年度	提供者２名、病院３件
平成13年度	提供者５名、病院６件
平成14年度	病院１件
平成15年度	提供者２名、病院３件
平成16年度	提供者３名、病院５件
平成17年度	提供者３名、病院３件

年度	贈呈数
平成18年度	提供者７名、病院７件
平成19年度	提供者２名、病院２件
平成20年度	提供者３名、病院７件
平成21年度	提供者１名、病院１件
平成22年度	病院６件
平成23年度	提供者２名、病院３件
平成24年度	提供者２名、病院２件
平成25年度	―――
平成26年度	―――
平成27年度	病院３件
平成28年度	病院３件
平成29年度	病院１件 平成29年度で事業廃止
平成30年度	―――
令和元年度	―――
令和２年度	―――

出前講座

平成24年度より、医学部学生や看護学生、高校生等を対象に医師や移植コーディネーター、移植体験者、臓器提供者家族を派遣し出前講座を実施しました。

年度	施設数（参加者数）
平成３年度	―――
平成４年度	―――
平成５年度	―――
平成６年度	―――
平成７年度	―――
平成８年度	―――
平成９年度	―――
平成10年度	―――
平成11年度	―――
平成12年度	―――
平成13年度	―――
平成14年度	―――
平成15年度	―――
平成16年度	―――
平成17年度	―――

年度	施設数（参加者数）
平成18年度	―――
平成19年度	―――
平成20年度	―――
平成21年度	―――
平成22年度	―――
平成23年度	―――
平成24年度	８施設　（942名）
平成25年度	６施設　（555名）
平成26年度	６施設　（578名）
平成27年度	４施設　（405名）
平成28年度	５施設　（1509名）
平成29年度	４施設　（690名）
平成30年度	９施設　（1689名）
令和元年度	８施設　（1319名）
令和２年度	６施設　（773名）

寄付金

県内の法人や団体、個人の方から寄付をいただきました。
※千葉県・市町村・民間の記載があるものは出損金

年度	件数（寄付金総額）
平成３年度	千葉県　（300,000,000円） 市町村　（37,500,000円） 民　間　（76,300,000円）
平成４年度	市町村　（37,500,000円） 民　間　（33,942,500円）
平成５年度	市町村　（17,500,000円） 民　間　（23,850,000円）
平成６年度	市町村　（17,500,000円） 民　間　（14,750,000円）
平成７年度	市町村　（15,000,000円） 民　間　（23,850,000円）
平成８年度	民　間　（17,375,000円）
平成９年度	民　間　（100,000円） 74件　（3,307,372円）
平成10年度	57件　（3,647,586円）
平成11年度	54件　（1,451,869円）
平成12年度	48件　（1,112,240円）
平成13年度	90件　（2,414,432円）
平成14年度	63件　（1,887,483円）
平成15年度	45件　（818,102円）
平成16年度	51件　（1,490,268円）
平成17年度	32件　（1,073,833円）

年度	件数（寄付金総額）
平成18年度	38件　（874,381円）
平成19年度	46件（1,063,192円）
平成20年度	32件　（871,134円）
平成21年度	29件　（873,574円）
平成22年度	24件　（812,437円）
平成23年度	22件　（560,387円）
平成24年度	17件（1,514,390円）
平成25年度	13件　（385,365円）
平成26年度	11件　（327,775円）
平成27年度	10件　（272,863円）
平成28年度	９件　（263,319円）
平成29年度	７件　（164,758円）
平成30年度	８件　（302,841円）
令和元年度	10件　（236,544円）
令和2年度	８件　（294,816円）

感謝状贈呈

千葉ヘルス財団の顕彰規定により感謝状を贈呈しました。

年度	贈呈数
平成３年度	―――
平成４年度	―――
平成５年度	―――
平成６年度	―――
平成７年度	―――
平成８年度	―――
平成９年度	―――
平成 10 年度	―――
平成 11 年度	―――
平成 12 年度	―――
平成 13 年度	団体 14 名
平成 14 年度	団体 11 名
平成 15 年度	団体７名、個人２名
平成 16 年度	団体８名
平成 17 年度	団体 11 名

年度	贈呈数
平成 18 年度	団体 11 名
平成 19 年度	団体 12 名
平成 20 年度	団体 14 名、個人１名
平成 21 年度	団体 16 名、個人１名
平成 22 年度	団体 14 名、個人１名
平成 23 年度	団体 12 名、個人１名
平成 24 年度	団体２名、個人１名
平成 25 年度	団体５名、個人１名
平成 26 年度	団体４名、個人２名
平成 27 年度	団体４名、個人１名
平成 28 年度	団体６名、個人１名
平成 29 年度	団体４名、個人１名
平成 30 年度	団体３名、個人２名
令和元年度	団体２名、個人１名
令和２年度	団体３名、個人１名

研修会・公開講座・キャンペーン等

平成３年度 ９月24日　腎移植関係医療機関連絡会議　　参加者：39名	会場：千葉京成ホテル
10月６日　腎移植推進街頭キャンペーン　　参加者：217名 場所　JR：千葉、松戸、茂原、船橋、成田 主催　千葉ヘルス財団、千葉県、千葉県腎臓病患者連絡協議会 参加者　千葉県腎臓病患者連絡協議会、千葉県、千葉市、 医療関係者、千葉ヘルス財団	会場：JR５駅頭
11月16日　在宅医療研修会　　参加者：約160名 主催　千葉ヘルス財団 対象　医療関係者等　160名 内容　事例発表　3団体 講演　千葉県医師会在宅ケアシステム委員長　鈴木　弘祐氏	会場：千葉県医療センター
11月17日　腎臓病を考える集い　　参加者：約250名 主催　千葉ヘルス財団、千葉県腎臓病患者連絡協議会 千葉「腎炎・ネフローゼ児を守る会」 対象　医療関係者、患者・家族、一般等 内容　体験発表 講演　「患者の立場から」「親の立場から」 国立療養所千葉東病院　　宇田川　純子氏 帝京大学医学部市原病院　小出　桂三氏	会場：スズケン㈱ 千葉支店メデイカルホール
２月29日　公開シンポジウム　　参加者：約600名 主催　千葉ヘルス財団 対象　一般県民　約600名 講演　「老いへの順応か老いへの挑戦か」 聖路加看護大学学長　日野原　重明氏 パネルディスカッション　「老いを支える」 千葉県医師会会長　渡辺　武氏 千葉県看護協会会長　赤井　つる氏 淑徳大学教授　　川上　昌子氏 千葉県衛生部長　　野村　瞭氏	会場：幕張メッセ国際会議場
平成４年度 10月16日　腎臓病を考える集い 内容　「世界の山々をめざして」 登山家　　田部井　淳子氏 「わかりやすい腎臓病」 千葉大学医学部　上田　志朗氏	会場：千葉市文化センター
平成5年度　―――	
平成6年度　―――	
平成7年度　―――	
平成8年度　―――	
平成９年度 ６月14日～15日　県民健康づくり普及啓発事業　　参加者：約1,000名 内容　・骨粗しょう症検診コーナー　・たばこ依存度測定コーナー ・健康相談コーナー　・パネル展示 ・リーフレット配布	会場：幕張メッセ展示ホール
10月５日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ：千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、木更津、茂原 京成：千葉、成田 配布物　7,187個	場所：ＪＲ８駅頭・京成２駅頭

10月26日　第10回腎臓病を考える会　　参加者：110名 主催　千葉県腎臓病患者連絡協議会、千葉県「腎炎・ネフローゼ児」を守る会 後援　千葉県・千葉ヘルス財団等 講演　「腎臓病と動脈硬化」 東邦大学医学部付属佐倉病院　臨床検査医学研究室 教授　白井　厚治氏 「動脈硬化予防と腎臓病食」 東邦大学医学部付属佐倉病院　栄養部管理栄養士　永井　千代子氏 体験発表　「移植に恵まれて」移植患者　　小倉　松夫氏 「日々感謝して」患者の親　　城戸　夕美氏 質疑応答　「医療・食事相談」	会場：千葉県教育会館
11月21日　在宅医療研修会　　参加者：52名 主催　千葉ヘルス財団 内容　活動報告 「訪問看護ステーションの活動の実際」 千葉県老人訪問看護ステーション連絡協議会　会長　板倉　裕子氏 講演　「在宅ケアのための住環境改善」 国立公衆衛生院建築衛生学部住宅衛生室　室長　松本　恭治氏	会場：木更津市市民会館
12月19日　腎移植関係医療機関連絡調整会議 出席者：旭中央病院他13医療機関の病院長等24名 諸橋副理事長、横山部会長、嶋村副部会長他 会議内容　腎移植の推進を図るため、腎摘出医療機関と腎臓移植 実施医療機関との意見交換	会場：千葉県救急医療センター
2月13日　在宅ケア講演会　　参加者：596名 主催　千葉県・千葉ヘルス財団 参加者　一般住民、市町村、保健所、医療・福祉関係者等 講演　「介護保険法成立―介護保険法施行に向けて準備―」 千葉県高齢化施策推進課　課長　梶尾　雅宏氏 「介護保険における介護支援専門員の役割」 千葉県高齢化施策推進課主査　介護支援専門指導者　山本　まさ氏	会場：千葉県教育会館大ホール
平成10年度 6月13日～14日　県民健康づくり普及啓発事業　　参加者：3,000名 内容　・骨粗しょう症検診コーナー　　・たばこ依存度測定コーナー ・生活習慣病予防相談指導　　・パネル展示 ・啓発リーフレット、グッズの配布	会場：幕張メッセ展示ホール
10月4日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、木更津、茂原 京成：成田 配布物　臓器移植意思表示カード　15,000組	場所：ＪＲ8駅頭・京成1駅頭
11月16日　在宅ケア研修会　　参加者：92名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　「地域ケアのシステムづくりと意識改革」 名古屋工業大学生産システム工学科　教授　山本　勝氏 「地域ケア実践現場からの報告」 海匝保健所地域指導班　主査　柴　英子氏	会場:プラザ菜の花
1月19日　在宅ケア講演会　　参加者：385名 主催　千葉県、千葉市、千葉ヘルス財団 講演　「老母介護で思うこと」 ノンフィクション作家　門野　晴子氏 映画　「地域をつむぐ　～佐久総合病院小海町診療所から～」	会場：千葉市文化センターホール
1月22日　腎移植関係医療機関連絡調整会議 出席者：国保旭中央病院他12医療機関の病院長等、横山腎バンク部会長、 嶋村副部会長等32名 会議内容　腎移植の推進を図るため、腎摘出医療機関と腎臓移植 実施医療機関との意見交換	会場：千葉県循環器病センター

2月14日　第11回腎臓病を考える会　　参加者：209名 シンポジウム「移植について」 主催　　千葉県腎臓病患者連絡協議会 後援　　千葉県、千葉ヘルス財団等 座長　　国立佐倉病院　院長　横山　健郎氏 パネラー（行政）県衛生部保健予防課　課長　山崎　晋一朗氏 （医師）国立佐倉病院　副院長　柏原　英彦氏 （移植コーディネーター） 総合病院旭中央病院脳神経外科　主任部長　富田　伸氏 （患者）千葉県腎臓病患者連絡協議会　会長　中村　和子氏 普及啓発事業　扇屋ジャスコ折込広告に掲載	会場：千葉市民会館
平成11年度 6月12日～13日　県民健康づくり普及啓発事業　　参加者：約3,000名 内容　・骨密度測定　・運動測定　・健康増進相談 ・パネル展示　・啓発リーフレット、グッズの配布	会場：幕張メッセ展示ホール
9月28日　腎移植関係医療機関連絡調整会議 出席者：国立佐倉病院他7医療機関の医師等 森山腎バンク部会長、嶋村副部会長等14名 内容　基調講演「脳死での臓器提供の経緯と課題」 （社）日本臓器移植ネットワーク チーフ移植コーディネーター　菊地　耕三氏 意見交換 国立循環器病センター提供の「臓器提供シミュレーション」放映	会場：千葉京成ホテル
10月３日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、木更津、茂原 京成：成田、八千代 配布物　臓器移植意思表示カード等　15,000組	場所：ＪＲ８駅頭・京成２駅頭
10月24日　第12回腎臓病を考える会　　参加者：75名 主催　千葉県腎臓病患者連絡協議会 後援　千葉県・千葉ヘルス財団 講演　「脳死とは」 厚生省保健医療局臓器移植対策室　室長補佐　山本　尚子氏 講演　「脳死移植とは」 千葉県救急医療センター　診療部長　渡邊　義郎氏 移植患者の体験発表　小峰　順子氏	会場：千葉市民会館
12月3日　在宅ケア研修会　　参加者：89名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　「健康日本21計画」における行動科学の適用 三菱総合研究所行動科学部　室長代理　馬場　哲也氏 「あたたかい地域介護を求めて」 西嶋医院　院長　西嶋　公子氏	会場：ポートプラザちば
2月4日　在宅ケア講演会　　参加者：280名 主催　　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　　「『健康日本21』－スポーツと健康－」 筑波スポーツ科学研究所　副所長　三屋　裕子氏 「これからの地域介護」 加曽利病院地域医療部　部長　中村　宏氏	会場：ポートプラザちば
平成12年度 6月10日～11日　県民健康づくり普及啓発事業　　参加者：5,000名 内容　・骨密度測定　・健康増進相談 ・パネル展示　・啓発リーフレット、グッズの配布	会場：幕張メッセ展示ホール
10月8日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、木更津、茂原 京成：成田、八千代 配布物　臓器移植意思表示カード等　15,000組	場所：ＪＲ８駅頭・京成２駅頭

10月29日　第13回腎臓病を考える会　　参加者：147名 主催　千葉県腎臓病患者連絡協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団等 講演　「糖尿病の予防と治療そして臓器移植」 国立佐倉病院内科医長　透析センター主任　重松　隆氏 「血液透析の危機管理と災害対策」 みはま病院理事長　千葉県透析医会副会長 日本透析医会災害対策委員会　委員長　吉田　豊彦氏	会場：ぱるるプラザ千葉
12月11日　在宅ケア研修会　　参加者：86名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　「要介護予防のヘルスアセスメントについて」 東京都老人総合研究所　室長　新開　省二氏 「健康スポーツと生活習慣病」 大妻女子大学　教授　橋本　勲氏	会場：ポートプラザちば
1月17日　腎移植関係医療機関連絡調整会議 出席者：国立佐倉病院他4医療機関の医師等、森山腎バンク部会長等11名 講演　「脳死移植の現在までの状況と問題点」 （社）日本臓器移植ネットワーク 移植コーディネーター　芦刈　淳太郎氏、川村　梨紗氏 「移植後の状況について」 木内　博文氏	会場：ポートプラザちば
2月28日　在宅ケア講演会　　参加者：420名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　「いつか老人介護」俳優　中尾　彬氏 映画　「ちぎれ雲」～いつか老人介護～	会場：ポートプラザちば
平成13年度 **６月9日～10日　県民健康づくり普及啓発事業　　参加者：5,000名** 内容　・骨密度測定　・健康教育　・健康増進相談 ・パネル展示　・啓発リーフレット　・グッズの配布	会場：幕張メッセ展示ホール
10月7日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、茂原 京成：成田、八千代 配布物　臓器移植意思表示カード等　15,000組	場所：ＪＲ7駅頭・京成2駅頭
10月14日　第14回腎臓病を考える会　　参加者：206名 主催　千葉県腎臓病患者連絡協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　「腎臓病を克服するために」 国立佐倉病院　内科医長　鈴木　理志氏 「腎不全における内視鏡手術」 国立佐倉病院　　外科医長　山田　英夫氏	会場：千葉県教育会館
12月7日　臓器移植推進講演会 出席者　香取、海匝、山武地区の医療機関関係者 講演　「移植医療の現状」 （社）日本臓器移植ネットワーク 移植コーディネーター　芦刈　淳太郎氏 千葉大学大学院先端応用外科　堀　誠司氏	会場：総合病院国保旭中央病院
12月7日　在宅ケア研修会　　参加者：124名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　「在宅人工呼吸器支援事業の足跡と今後の展開」 国立療養所千葉東病院　医師　今井　尚志氏 シンポジウム「神経難病患者の在宅ケアをめぐって」 座長　千葉大学看護学部　教授　宮崎　美砂子氏 国立療養所千葉東病院　医師　今井　尚志氏 シンポジスト　兵庫県在住　熊谷　寿美氏 安房保健所　高梨　葉子氏 市川保健所　市川　滋子氏 ALS協会千葉県支部　川上　純子氏	会場：千葉市総合保健医療センター

3月13日　在宅ケア講演会　　参加者：252名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 講演　「生理学の散歩道」 東京慈恵会医科大学　教授　馬詰　良樹氏 「きれいに歳をとる秘訣教えます」 タレント　泉　アキ氏	会場：ポートプラザちば
平成14年度 10月6日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、茂原 京成：成田、八千代 配布物　臓器移植意思表示カード等　15,000組	場所：ＪＲ7駅頭・京成2駅頭
10月27日　第15回腎臓病を考える会　　参加者：235名 主催　千葉県腎臓病患者連絡協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団他 講演　「透析アミロイドーシスについて」 東葛クリニック病院　理事　中澤　了一氏 「腎移植の最近の進歩」 国立佐倉病院　外科医長　有田　誠司氏	会場：ぱるるプラザ千葉
11月15日　臓器移植推進講演会 出席者　市川市の医療機関関係者 講演　「移植医療の現状」 （社）日本臓器移植ネットワーク　移植コーディネーター 芦刈　淳太郎氏 「移植医療の現状と最近の進歩」 国立佐倉病院　外科医長　有田　誠司氏	会場：東京歯科大学附属 市川総合病院
3月7日　在宅ケア研修会　　参加者：40名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 シンポジウム　「神経難病患者と“じりつ”　自立と自律」 国立療養所千葉東病院　神経内科医長　今井　尚志氏 シンポジスト　木更津市在住　小出　喜一氏 千葉市在住　舩後　靖彦氏 千葉東病院看護師　栗原　久美子氏 千葉東病院栄養士　脇山　奈穂子氏	会場：東葛支庁
平成15年度 9月9日　臓器移植の推進を図るための講和 出席者　臓器移植部会委員、臓器移植コーディネーター 内容　「院内コーディネーターの役割と他県の事例」 （社）日本臓器移植ネットワーク　移植コーディネーター 芦刈　淳太郎氏、川村　梨紗氏	会場：県議会棟
10月5日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、茂原 京成：成田、八千代 配付物　　臓器提供意思表示カード等　15,000組	場所：ＪＲ７駅頭・京成２駅頭
10月26日　第16回腎臓病を考える会　　参加者：237名 講演　「透析と心臓病」 千葉社会保険病院　循環器内科部長　河野　行儀氏 「生活習慣病の予防」 千葉大学大学院　教授　齋藤　康氏	会場：ぱるるプラザ千葉
1月21日　在宅ケア研修会　　参加者：206名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団 シンポジウム「がんや難病患者等の在宅における緩和ケアを考える」 座長　クリニックあしたば　院長　中村　宏氏 シンポジスト　聖ヨハネ会桜町病院ホスピス科　部長　山崎　章郎氏 イエズスの聖心病院　井田　栄一氏 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会 会長　宮崎　やすこ氏 千葉県がんセンター　緩和医療センター師長　草刈　聡子氏 千葉東病院　副看護師長　志津　由三子氏	会場：千葉市総合保健医療センター

平成16年度 10月3日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、市川、松戸、茂原 京成：成田、八千代 配布物　臓器提供意思表示カード、シール、リーフレット等　15,000組	場所：ＪＲ７駅頭・京成２駅頭
10月31日　第17回腎臓病を考える会　　参加者：227名 主催　NPO法人千葉県腎臓病協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団他23団体 内容　講演及び医療相談会 講演　「血管を守る抗酸化の食事」 聖隷佐倉市民病院　栄養課次長　金谷　節子氏 「糖尿病性腎症に対する移植医療」 独立行政法人国立病院機構千葉東病院　外科医長　剣持　敬氏	会場：ぱるるプラザ千葉
12月11日　在宅ケア研修会　　参加者：120名 主催　千葉県、千葉ヘルス財団、（社）千葉県医師会、（社）安房医師会、 千葉県老人保健施設協議会、（社）千葉県看護協会、 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、千葉県介護支援専門員協議会 講演１　「医療と介護の一体化でつくる在宅ケア」 （医）萌気会　理事長　黒岩　卓夫氏 講演２　「あたたかい地域介護をめざして」 （医）公朋会　理事長　西嶋　公子氏 シンポジウム「支えきれる在宅ケアシステムをめざして」 座長　クリニックあしたば　院長　中村　宏氏 シンポジスト　千葉県保健所長会　会長　藤木　哲郎氏 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会　会長 佐野　袈裟美氏 鴨川市健康管理課在宅介護支援センター　小坂　重樹氏	会場：千葉県南総文化ホール
その他 ちばヘルス財団募金箱の作成　100個 県内の透析病院を中心に配布・協力依頼をした。 **普及啓発ビデオ制作** ヘルス財団の活動（地域における在宅ケア等の推進、臓器移植の推進等）を 県民に映像で紹介し諸事業の普及啓発を図るため、PRビデオを制作した。 成果品　VHSビデオ30本　DVD10枚 配付先　健康福祉センター、県医師会・歯科医師会、 県訪問看護ステーション連絡協議会、収録関係者等	
平成17年度 10月2日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、松戸、茂原 京成：成田、八千代 配布物　臓器提供意思表示カード、シール、リーフレット等　15,000組	場所：ＪＲ６駅頭・京成２駅頭
10月30日　第18回腎臓病を考える会　　参加者：255名 主催　特定非営利活動法人千葉県腎臓病協議会 内容　講演及び医療相談会 講演　「透析における脊椎・脊髄の疾患」 聖隷佐倉市民病院　リハビリテーション科部長　根本　哲治氏 講演　「腎不全の治療」 聖隷佐倉市民病院　外科部長　有賀　誠司氏 ・質疑 ・医療相談会	会場：ぱるるプラザ千葉
1月21日　在宅ケア研修会　　参加者：140名 主催　千葉ヘルス財団、千葉県、千葉県医師会、佐原市香取郡医師会、 千葉県老人保健施設協議会、千葉県看護協会、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、千葉県介護支援専門員協議会 講演　「住み慣れた家で死ぬということ」～ホームホスピスケアの現場から～ 兵庫県尼崎市　さくらいクリニック　院長　桜井　隆氏	会場：佐原市中央公民館

シンポジウム「在宅医療の充実のために」～医療と在宅チームとの連携～ 座長　千葉県がんセンター　センター長　竜　崇正氏 シンポジスト　千葉県立佐原病院　看護師　小沼　康子氏 多古町訪問看護ステーション　看護師　大里　光枝氏 坂本医院　院長　坂本　文夫氏 NPOピュア　代表　藤田　敦子氏 香取健康福祉センター　保健師　石津　功子氏	
1月23日　臓器移植関係医療機関連絡調整会議　参加者：27名 内容　報告及び意見交換 ・全国の臓器移植の現況について （社）日本臓器移植ネットワーク東日本支部 主席コーディネーター　芦刈　淳太郎氏 ・県内における臓器移植の側から見た現状と課題について 独立行政法人千葉東病院　臨床研究センター長　剣持　敬氏 ・県内における臓器提供の側から見た現状と課題について 千葉県救急医療センター　医療局長　中村　弘氏 ・今後の対応について 財団法人千葉ヘルス財団　常務理事（兼）事務局長　小泉　光正氏	会場：プラザ菜の花
平成18年度 **7月2日　市民公開講座　参加者：60名** 内容　「千葉県の臓器移植の現状」 千葉東病院　外科医長　丸山　通広氏 「千葉県のすい臓移植すい島移植の現状」 千葉東病院　臨床研究センター長　剣持　敬氏 すい臓移植患者の体験談	会場：プラザ菜の花
10月1日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、松戸、茂原 京成：成田 配布物　臓器提供意思表示カード、リーフレット、啓発グッズ 15,000組	場所：ＪＲ６駅頭・京成１駅頭
10月29日　第19回腎臓病を考える会　　参加者：181名 主催　特定非営利活動法人千葉県腎臓病協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団　他22団体 内容　講演及び医療相談会 講演　「糖尿病性腎症の予防と管理について」 国立病院機構千葉東病院　統括第一診療部長　西村　元伸氏 「腎不全の治療」 聖隷佐倉市民病院　外科部長　有賀　誠司氏 ・質疑 ・医療相談会	会場：ぱるるプラザ千葉
1月21日　在宅ケア研修会　　参加者：170名 主催　（財）千葉ヘルス財団、千葉県、（社）千葉県医師会 （社）千葉市医師会、千葉県老人保健施設協議会、 （社）千葉県看護協会、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、 千葉県介護支援専門員協議会 後援　千葉市 講演　「地域に広げる緩和ケア」 司会　千葉県がんセンター　緩和医療科医長　坂下　美彦氏 講師　広島県緩和ケア支援センター緩和ケア支援室　室長　阿部　まゆみ氏 パネルディスカッション 司会　さくさべ坂通り診療所　所長　大岩　孝司氏 パネリスト　宍戸内科医院　副院長　宍戸　英樹氏 国保匝瑳市民病院　看護部長　大木　信子氏 国立がんセンター中央病院 メディカルソーシャルワーカー　大橋　英理氏 千葉県がんセンター 看護局看護部主任看護師　木村　由美子氏 千葉県立佐原病院　看護局主任看護師　小沼　康子氏 JA千葉厚生連事業部介護事業課　課長　畠　淳子氏 患者ご家族　片岡　妙子氏	会場：プラザ菜の花

その他　　臓器移植普及啓発事業 ポスター（A2版）を作成し配布　1,000部	
平成19年度 **7月8日　市民公開講座　参加者：116名** 「千葉県の移植医療の現状」 千葉県臓器移植コーディネーター　宮崎　麻里子氏 「当院の腎臓移植・膵臓移植・膵島移植の現状と成果」 国立病院機構千葉東病院臨床研究センター　センター長　剣持　敬氏 千葉労災病院　院長　深尾　立氏 特定非営利法人　千葉県移植再生医療連絡協議会理事長 「移植患者の体験談」	会場：プラザ菜の花
10月7日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、松戸、茂原 京成：成田 配布物　臓器提供意思表示カード、リーフレット、啓発グッズ 12,000組	場所：ＪＲ6駅頭・京成1駅頭
10月28日　第20回腎臓病を考える会　参加者：185名 主催　特定非営利活動法人千葉県腎臓病協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団 講演「慢性腎臓病（CKD）について」 千葉大学医学部附属病院　腎臓病内科科長　小川　真氏 講演「糖尿病治療としての腎移植、膵・膵島移植」 ～糖尿病合併症を防ぐためには～ 国立病院機構千葉東病院　臨床研究センター　剣持　敬氏 ・移植患者の体験発表、医療相談会	会場：千葉市文化交流プラザ
1月19日　在宅ケア研修会　参加者：198名 主催：（財）千葉ヘルス財団、千葉県、（社）千葉県医師会 （社）千葉県歯科医師会、（社）千葉市医師会、 （社）浦安医師会、千葉県老人保健施設協議会、 千葉県介護支援専門員協議会、（社）千葉県看護協会、 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、 NPO法人医療・福祉ネットワーク千葉 講演「がん治療と口腔ケアについて」 司会　千葉県歯科医師会理事　溝口　万里子氏 講師　東京歯科大学市川総合病院講師　渡邊　裕氏 パネルディスカッション：患者さんが望む在宅ケアの実現に向けて 司会　千葉県がんセンター 緩和医療科部長　渡邊　敏氏 看護師長　山岸　聡子氏 「県がんセンターと千葉市の取り組み」 千葉市医師会理事　斎藤　博明氏 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会会長　佐野　けさ美氏 千葉県がんセンター看護局看護部主任看護師　齋藤　亜希氏 千葉県がんセンター看護局看護部主任看護師　木村　由美子氏 「順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院と浦安市での取り組み」 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院教授　木所　昭夫氏 浦安市医師会理事　小林　澄子氏 訪問看護ステーションゆうこう所長　泉山　明美氏 「患者・在宅支援体験者としての経験から今後の在宅ケアに望むこと」 ～患者・家族からの在宅ケア体験談～ 患者ご家族　片岡　妙子氏	会場：千葉県教育会館

平成20年度 7月6日　市民公開講座　参加者：145名 「千葉県の移植医療の現状」 千葉県臓器移植コーディネーター　宮崎　麻里子氏 「我が国の移植医療の展開と当院の現状」 国立病院機構千葉東病院臨床研究センター　センター長　剣持　敬氏 千葉労災病院　院長　深尾　立氏 特定非営利法人　千葉県移植再生医療連絡協議会理事長 「移植患者の体験談」	会場：プラザ菜の花
10月5日　臓器移植街頭キャンペーン 場所　ＪＲ:千葉、船橋、成田、津田沼、松戸、茂原 京成：成田 配布物　臓器提供意思表示カード、リーフレット、啓発グッズ　12,000組	場所：ＪＲ6駅頭・京成1駅頭
10月26日　第21回腎臓病を考える会　参加者：216名 主催　特定非営利活動法人千葉県腎臓病協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団　他22団体 講演　「慢性腎臓病患者におけるメタボリックシンドロームの考え方」 国立病院機構千葉東病院　統括第一診療部長　西村　元伸氏 講演「慢性腎臓病患者の骨病変（カルシュウム・リン）について」 東京慈恵医科大学付属柏病院　腎臓高血圧内科助教授　寺脇　博之氏 講演「慢性腎臓病に対する移植医療の実際」 国立病院機構千葉東病院臨床研究センター　センター長　剣持　敬氏 移植患者の体験発表、医療相談会	会場：千葉市文化交流プラザ
1月24日　在宅ケア研修会　参加者：139名 主催：（財）千葉ヘルス財団、千葉県、（社）千葉県医師会 （社）千葉県歯科医師会、（社）千葉市医師会、 千葉県老人保健施設協議会、千葉県介護支援専門員協議会、 （社）千葉県看護協会、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、 NPO法人医療・福祉ネットワーク千葉 講演　「在宅ホスピス・緩和ケア地域の取り組み」 松永医院　院長 安房医師会理事　松永　平太氏 座長　クリニックあしたば　院長　中村　宏氏 パネルディスカッション：在宅患者さんをささえきれる地域づくり 司会　クリニックあしたば　院長　中村　宏氏 千葉県看護協会　常任理事　藤澤　里子氏 「県がん診療連携拠点病院の取り組み」 千葉県がんセンター　医長　坂下　美彦氏 「在宅医の取り組み」 宍戸内科医院　副院長　宍戸　英樹氏 「訪問看護ステーションの取り組み」 千葉県看護協会ちば訪問看護ステーション　所長　権平くみ子氏 「ケアマネージャーの取り組み」 千葉市あんしんケアセンターシャローム若葉センターセンター長 赤間　美恵子氏 「患者・家族会の取り組み」 千葉県がん患者大集合実行委員会　委員長　齋藤　とし子氏 患者・家族からの在宅ケア体験談及び質疑と意見交換 患者ご家族　小倉　恒子氏 患者ご家族　野川　尚男氏	会場：千葉市文化センター

平成21年度 **7月5日　市民公開講座　　参加者：85名** 第一部 「千葉県における移植医療推進への取り組み」 千葉県健康福祉部　理事　山本　尚子氏 「わが国の脳死移植と献腎移植の現状」 社団法人日本臓器移植ネットワーク東日本支部 主席コーディネーター　大宮　かおり氏 「当院の腎臓移植・膵臓移植の現状」 千葉東病院　外科医長　丸山　通広氏 「透析施設における役割・移植施設との連携」 亀田総合病院　腎センター　看護師　高梨　弥生氏 「移植医療におけるレシピエントコーディネーターの役割」 千葉東病院　レシピエントコーディネーター　鈴木　亜希子氏 第二部　移植患者の体験談 第三部　質疑応答	会場：プラザ菜の花
10月　臓器移植街頭キャンペーン　※インフルエンザ警報により中止	
10月24日　第11回臓器移植推進国民大会　　参加者：約100名 開会式典　厚生労働大臣挨拶、千葉県知事挨拶 厚生労働大臣感謝状贈呈 基調講演　「千葉県における臓器移植の歴史」 元日本移植学会理事長　千葉労災病院長　深尾　立氏 ミニコンサート　大原保人カルテット パネルディスカッション：臓器移植の推進と定着に向けて 移植医　剣持　敬氏 脳神経外科医　冨田　伸氏 日本臓器移植ネットワークコーディネーター　大宮　かおり氏 臓器提供者のご家族 臓器移植を受けた方 ミニコンサート　ハートフルホスピタル	会場：千葉ペリエホール
10月25日　第22回腎臓病を考える会　　参加者：207名 主催　特定非営利活動法人千葉県腎臓病協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団　他22団体 講演「慢性腎臓病（CKD）の食事療法」 国立病院機構千葉東病院　血液浄化センター　センター長 大林　弘明氏 講演「透析患者のシャントについて」 千葉社会保険病院　透析部長　室谷　典義氏 講演「慢性腎臓病（CKD）に対する腎臓移植」 国立病院機構千葉東病院　臨床研究センター長　剣持　敬氏 講演「腎臓病患者の新型インフルエンザ対策」 千葉県健康福祉部　健康危機対策監　海保　郁男氏 移植患者の体験発表 質疑応答・医療相談会	会場：千葉市文化交流プラザ
11月　在宅ケア研修会　※インフルエンザ警報により中止	
2月20日　平成21年度「千葉県の臓器移植体制の推進に関する連絡会議（法的脳死判定研修会）」　参加者：91名 第一部「脳死下臓器提供～改正法に向けて～」 社団法人日本臓器移植ネットワーク東日本支部 主席コーディネーター　大宮　かおり氏 「脳死判定と検証資料フォーマット」 船橋市立医療センター　副院長　唐澤　秀治氏 「救急医療と臓器提供」 千葉県救急医療センター　脳血管治療科部長　宮田　昭宏氏	会場：プラザ菜の花

第二部「脳波誘発電位測定の基礎」 市川市リハビリテーション病院　検査科技師長　高橋　修氏 「法的脳死判定における脳波測定～事例報告と検査の注意点～」 名古屋市立大学病院　中央臨床検査部　水野　久美子氏 「小児脳波想定の実際と注意点」 大垣市民病院　医療技術部診療検査科室長補佐　石郷　景子氏 第三部「脳波測定の実際・実技」	
平成22年度 9月12日　在宅ケア研修会　　参加者：217名 主催　（財）千葉ヘルス財団、千葉県、（社）千葉県医師会 （社）千葉県歯科医師会、（社）千葉市医師会、 千葉県老人保健施設協議会、千葉県介護支援専門員協議会、 （社）千葉県看護協会、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会 特別講演「安房地域での神経難病在宅支援の取り組み～ALSを中心に～」 講師　鋸南やまだ内科院長　山田　茂氏 座長　千葉県老人保健施設協議会長　平山　登志夫氏 基調講演Ⅰ「在宅療養支援システム『レスパイトケア体制』について」 講師　千葉東病院神経内科医長　吉山容正氏 座長　クリニックあしたば院長　中村　宏氏 基調講演Ⅱ「在宅療養における口腔ケアの重要性と実際」 講師　東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科　講師　渡邊　裕氏 座長　千葉県歯科医師会理事　溝口　万里子氏 パネルディスカッション：地域社会でどのような在宅療養支援が可能か？ 司会　クリニックあしたば院長　中村　宏氏 千葉県看護協会常任理事　藤澤　里子氏 「望ましい在宅療養支援とは」 ALS千葉県支部患者さんとご家族（三島みゆき氏、三島正剛氏、） りべるたす㈱ホームヘルパー　療養介護士　伊藤佳世子氏） 「患者会での取り組み」 日本ALS協会千葉県支部　事務局長　川上　純子氏 「訪問看護ステーションでの取り組み」 新八千代訪問看護ステーション　所長　吉田　由香子氏 「薬局の在宅療養支援」 ヤックス在宅医療薬剤センター 在宅医療薬剤コーディネーター　長谷川　寛氏	会場：プラザ菜の花
10月　第23回臓器移植街頭キャンペーン	
10月31日　第23回腎臓病を考える会 主催　特定非営利活動法人千葉県腎臓病協議会 後援　千葉県、千葉ヘルス財団　他23団体 講演「慢性腎臓病の合併症とその予防」 CKD・透析（合併症、心疾患と骨） 東京慈恵会医科大学付属柏病院　腎臓・高血圧内科　小倉　誠氏 講演「腎臓移植の現状と展望/法律改正後の課題」 （新臓器提供意思カードの携帯） 国立病院機構千葉東病院臨床研究センター　センター長　剣持　敬氏 移植患者の体験発表 質疑応答・医療相談会	会場：京葉銀行文化プラザ
平成23年度 ７月３日　市民公開講座　　参加者：127名 第一部：移植法改正後の移植医療の現状 「移植法改正後の臓器提供の現状」 社団法人日本臓器移植ネットワーク医療本部 チーフ臓器移植コーディネーター　菊池　雅美氏 「移植法改正後の我が国の移植医療の展開」 国立病院機構千葉東病院臨床研究センター センター長・日本移植学会理事　剣持　敬氏 第二部：内科医から見た腎移植医療 「末期腎不全の管理について」 医療法人鉄蕉会亀田総合病院 腎臓高血圧内科部長・腎センター長　望月　隆弘氏	会場：プラザ菜の花

「腎移植後の管理について」 国立病院機構千葉東病院内科　川口　武彦氏 第三部：臓器移植患者の体験談 質疑応答	
9月25日　在宅ケア研修会　　参加者：70名 主催　（財）千葉ヘルス財団、千葉県、千葉市、（社）千葉県医師会 （社）千葉県歯科医師会、（社）千葉市医師会、（社）千葉県看護協会、 千葉県老人保健施設協議会、千葉県介護支援専門員協議会、 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、日本ALS協会千葉県支部 特別講演「東日本大震災で被災者の医療支援を経験して」 講師　南房総市立富山国保病院院長　鈴木　孝徳氏 座長　クリニックあしたば院長　中村　宏氏 基調講演Ⅰ「東日本大震災被災者に対する地域支援」 講師　盛岡市介護事業　ひだまりケアセンター所長　鈴木　幸子氏 座長　千葉県訪問看護ステーション連絡協議会　会長　権平　くみ子氏 基調講演Ⅱ「東日本大震災直後の岩手県内の各被災地を廻って」 講師　岩手県保険医協会　事務局長　畠山　恒平氏 座長　浦安ふじみクリニック院長　竜　崇正氏 パネルディスカッション：大規模災害時の(地域)医療確保 司会　クリニックあしたば院長　中村　宏氏 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会　会長　権平　くみ子氏 「個人で備える災害対策について」 日本ALS協会千葉県支部　患者様 日本ALS協会千葉県支部　事務局長　川上　純子氏 「期待される災害弱者の公的支援」 非営利活動法人千葉県腎臓病協議会　理事長　中村　和子氏 「災害拠点病院の被災時の対応について」 順天堂大学医学部附属浦安病院救急診療科　教授　岡本　健氏 「被災者の口腔ケアについて」 千葉県歯科医師会　理事　栗原　正彦氏	会場：プラザ菜の花
平成24年度 7月22日　臓器移植市民公開講座　　参加者：95名 第一部：慢性腎不全の治療選択としての腎移植「献腎移植の状況」 社団法人日本臓器移植ネットワーク医療本部 チーフ臓器移植コーディネーター　菊池　雅美氏 「血液透析・腹膜透析について」 国立病院機構千葉東病院内科　川口　武彦氏 「腎移植について」 国立病院機構千葉東病院移植・再生医療研究部 部長　圷　尚武氏 第二部：腎移植・膵臓移植の体験談 「移植患者会千葉東クローバーの会の紹介」 千葉東病院移植患者会千葉東クローバーの会　会長　牧野　岩男氏 「臓器移植を受けられた患者さんの体験談」 第三部「医療相談コーナー・個々の患者様の悩みや質問にお答えします。」	会場：プラザ菜の花
9月30日　在宅ケア研修会　　参加者：117名 主催　（財）千葉ヘルス財団、千葉県、千葉市、（社）千葉県医師会 （社）千葉市医師会、（社）千葉県看護協会、（社）千葉県歯科医師会、 （社）千葉県薬剤師会、千葉県老人保健施設協議会、 千葉県介護支援専門員協議会、千葉県腎臓病協議会、 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、日本ALS協会千葉県支部 特別講演「多職種連携のための在宅医療連携システム」 医療法人八女発心会姫野病院　理事長　姫野　信吉氏 司会　クリニックあしたば院長　中村　宏氏 基調講演Ⅰ「多職種がシームレスに連携する在宅医療提供の実践」 ～桜新町アーバンクリニックの経験～ 医療法人社団プラタナスナースケアステーション 所長　片山　智栄氏 司会　クリニックあしたば院長　中村　宏氏	会場：プラザ菜の花

基調講演Ⅱ「多職種連携の千葉での実践」 千葉市すずらんクリニック　副院長　山﨑　恵一氏 司会　クリニックあしたば院長　中村　宏氏 パネルディスカッション「多職種連携をいかに行っていくか」 ～多職種連携の障害となるものは何か～ 司会　浦安ふじみクリニック院長　竜　崇正氏 パネリスト　姫野病院　理事長　姫野　信吉氏 医療法人社団プラタナスナースケアステーション 所長　片山　智栄氏 すずらんクリニック　副院長　山﨑　恵一氏 千葉県医師会副会長　土橋医院　院長　土橋　正彦氏 黒砂台診療所　院長　沖田　伸也氏 千葉県歯科医師会　稲葉歯科医院　院長　稲葉　洋氏 千葉県薬剤師会理事　カネマタ薬局 代表取締役　高橋　眞生氏 千葉県訪問看護ステーション連絡協議会　会長　権平　くみ子氏	
11月7日　臓器移植出前講座(初回講座)　参加者：212名	会場：順天堂大学医療看護学部
11月9日　臓器移植出前講座　　参加者：70名 講師を派遣し、医師等医療従事者に講演を実施した。 演題　「米国における移植医療の現状について」 コロンビア大学医学部外科学　教授　加藤　友郎氏	会場：帝京大学ちば総合医療センター
平成25年度 **９月29日　在宅ケア研修会　　参加者：75名** 主催　（公財）千葉ヘルス財団 テーマ：小児難病患者の在宅療養に向けての取り組み 司会　　クリニックあしたば院長　中村　宏氏 講演１「小児医療の千葉県内の基幹病院の立場から」 千葉県こども病院　副院長　高柳　正樹氏 講演２「地域で在宅医療を担う医療機関の立場から」 子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田　院長　戸谷　剛氏 講演３「小児等在宅医療連携拠点事業について」 千葉県健康福祉部障害福祉課地域生活支援室 室長　吉野　美砂子氏 医療法人社団麒麟会クリニックマネージャー ステーション管理者　谷口　由紀子氏 パネルディスカッション「人工呼吸器を使用等医療依存度の高い小児の在宅療養の推進について」 司会　千葉県こども病院副院長　高柳　正樹氏 パネリスト　子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田　院長　戸谷　剛氏 医療法人社団麒麟会クリニックマネージャー ステーション管理者　谷口　由紀子氏 松戸保健所地域保健課　課長　山田　邦子氏 市川市障害者地域生活支援センター　牧野　敬一氏 なごみ訪問看護ステーション　訪問看護師　鈴木　宏美氏	会場：プラザ菜の花
10月20日　臓器移植市民公開講座　　参加者：25名 第一部「最近の移植医療ってどうなっているの？ ～臓器提供施設における課題～」 千葉県救急医療センター脳血管治療科　部長　宮田　昭宏氏 第二部　「いのちのバトンタッチ～臓器移植はどのように行われるのか～」 国立病院機構千葉東病院移植・再生医療研究部 部長　坏　尚武氏 第三部　「アイバンクの献眼事業について」 公益財団法人千葉県アイバンク協会　常務理事　岡野　正義氏	会場：千葉市蘇我勤労市民プラザ
11月3日　臓器移植出前講座　参加者：150名 千葉県医師会研修会のランチョンセミナーに講師を派遣し、医師等医療従事者に講演を実施した。 演題　「米国における移植医療の現状について」 コロンビア大学医学部外科学　教授　加藤　友郎氏	

平成26年度 9月28日　在宅ケア研修会　　参加者：182名 テーマ：ALS患者家族を支えるために、その現状と必要な支援 基調講演　「ALS患者家族の生活の実態」 患者様家族様　2組 「ALS患者家族の心理状況とその支援」 千葉東病院　臨床心理士　加藤　麻美氏 「千葉県難病レスパイト事業の現状」 千葉東病院　看護師　中村　和代氏 特別講演　「ALSの在宅ケアの経験から～医療処置の選択と終末期ケア～」 医療法人神経内科クリニックなんば　院長　難波　玲子氏 パネルディスカッション「地域におけるALS患者家族支援の現状、そしてその強化のために」 座長　千葉東病院（千葉ヘルス財団在宅ケア部会員）吉山　容正氏 パネリスト　千葉県看護協会ちば訪問看護ステーション　鈴木　薫氏 吉野内科・神経内科医院　院長　吉野　英氏 市民活動団体地域ケアパートナーほっと　代表　藤井　直枝氏 医療法人社団二洋会　岡崎医院　院長　岡崎　信彦氏 日本ALS協会千葉県支部　事務局長　川上純子氏 千葉県健康福祉部疾病対策課難病アレルギー班 班長　吉田留美子氏	会場：プラザ菜の花
10月17日　臓器移植市民公開講座　　参加者：33名 座長　千葉ヘルス財団臓器移植部会長　竜　崇正氏 基調講演　「脳死移植する？しない？」 特定非営利法人脳死移植を推する会 理事長　川越　一男氏 特別講演１「脳死移植推進の課題について」 厚生労働省　健康局疾病対策課移植医療対策推進室 室長　阿萬　哲也氏 特別講演２「移植医療の現場から」 ～愛知県での取り組みと課題～ 藤田保健衛生大学病院移植医療支援室　副室長 愛知県臓器移植コーディネーター　西山　幸枝氏 ～臓器提供数増加への取り組み～ 藤田保健衛生大学病院移植医療支援室　室長 藤田保健衛生大学医学部　臓器移植科　教授　剣持　敬氏 移植体験談　心臓移植体験者 肝臓移植体験者 腎臓移植体験者 膵・腎臓同時移植体験者	会場：プラザ菜の花
平成27年度 9月27日　在宅ケア研修会　　参加者：64名 テーマ：災害時の在宅療養者の支援について～東日本大震災の教訓から～ 特別講演 座長　千葉ヘルス財団在宅ケア部会長　平山　登志夫氏 「東日本大震災の要支援者支援から見えること」 北里大学病院トータルサポートセンター長 医療法人鉄蕉会亀田総合病院地域医療支援部 顧問　小野沢　滋氏 パネルディスカッション「在宅療養者の災害時の備えと支援について」 座長　千葉ヘルス財団在宅ケア部会委員　金子　恵子氏 パネリスト　千葉県こども病院医療局神経科部長　小俣　卓氏 千葉県訪問看護ステーションいちご　管理者　木所　律子氏 千葉市あんしんケアセンター桜木 センター長　赤間　美恵子氏 旭市高齢者福祉課　副主幹　大久保　綾子氏 山武健康福祉センター地域保健課　主査　吉水　雅子氏	会場：プラザ菜の花

10月18日　臓器移植市民公開講座　　参加者：35名 テーマ：意思表示が思いをつなぐ～たくさんの想いを知り、あなたも意思表示してみませんか～ 基調講演　テーマ：移植医の想い 座長　千葉ヘルス財団臓器移植部会委員　宮内　英聡氏 「肺移植の実際」 千葉大学医学部附属病院呼吸器外科　准教授　吉田　成利氏 「肝移植の実際」 千葉大学医学部附属病院肝胆膵外科　講師　大塚　将之氏 体験談およびパネルディスカッション 座長　特定非営利法人脳死移植を推進する会理事長 千葉ヘルス財団臓器移植部会　副部会長　川越　一男氏 心臓移植体験者　瀬川　美由起氏 渡航心臓移植体験ご家族　中澤　奈美枝氏 ドナーご家族（献眼）　平野　陽一氏 ドナーご家族　原澤　美智子氏	会場：きぼーる
平成28年度 9月25日　在宅ケア研修会　　参加者：95名 テーマ：在宅での看取り～穏やかな人生の最期を迎えていただくために～ 基調講演 座長　千葉ヘルス財団在宅ケア部会長　平山　登志夫氏 「地域の力で看取りを支える」 順風会小林クリニック　院長　小林　澄子氏 「暮らしを支える緩和医療　有床診療所/在宅支援診療所としての看取りの実践から」 医療法人社団花の谷クリニック　院長　伊藤　真美氏 パネルディスカッション「在宅での看取りができる地域づくり ～医療・介護福祉関係者の立場から～」 座長　千葉ヘルス財団在宅ケア部会委員　中村　宏氏 パネリスト　順風会小林クリニック　院長　小林　澄子氏 医療法人社団花の谷クリニック　院長　伊藤　真美氏 千葉県薬剤師会　在宅医療委員会　副委員長　眞鍋　知史氏 ふたわ訪問看護ステーション　看護主任　大塚　明子氏 千葉市あんしんケアセンター桜木 センター長　赤間　美恵子氏 ㈱クリーンメイト千葉サービスセンター 管理者　渡辺　智恵子氏	会場：プラザ菜の花
10月16日　臓器移植市民公開講座　　参加者：45名 テーマ：“知ろう、学ぼう”～透析医療・腎臓移植の実際と展望～ 基調講演　「腎臓代替療法治療の実際」 千葉東病院内科　血液浄化センター長　首村　守俊氏 「先行的腎移植の現状と問題点」 千葉東病院外科　医長　大月　和宣氏 体験談およびパネルディスカッション 「腎臓移植の実際を語ろう～不安から期待へ～」 座長　千葉東病院統括診療部長　丸山　通広氏 体験談　家族間の腎臓移植を経験された方(夫婦間の生体移植) 千葉東病院内科血液浄化センター長　首村　守俊氏 千葉東病院外科　医長　大月　和宣氏 家族間の腎臓移植を経験された方　（ご夫妻） 日本臓器移植ネットワーク　チーフコーディネーター　菊池　雅美氏	会場：プラザ菜の花
12月18日　地域在宅ケア研修会　　参加者：70名 テーマ：「知ろう、学ぼう、確認しよう　災害時の支援」 座長　千葉ヘルス財団企画委員　金子　恵子氏 講演　「被災地の避難所と要支援者　在宅患者をどうするか」 みその生活支援クリニック　院長　小野沢　滋氏	会場：成田赤十字病院
臓器移植普及啓発用ポスターの作成配布 作成枚数:1000枚　　配布カ所：604か所	

平成29年度 9月２日　地域在宅ケア研修会　参加者：44名 テーマ：「難病患者の災害に備えての準備と災害時の支援について」 座長　　千葉ヘルス財団在宅ケア部会委員　松野　朝之氏 講演　　「重度難病・障害者の災害時対策について」 静岡県立大学看護学部在宅看護学　講師　今福　恵子氏	会場：船橋市保健福祉センター
9月24日　在宅ケア研修会　　参加者：63名 テーマ：地域で支える認知症～患者と家族のために～ 基調講演 座長　千葉ヘルス財団代表理事　平山　登志夫氏 「よくわかる認知症診療～レビー小体型認知症を中心に」 神経内科千葉　所長　篠遠　仁氏 「認知症　それでも食べることは忘れない」 天台歯科医院　院長　石毛　清雄氏 パネルディスカッション「多職種の協働で支える認知症～その役割と連携～」 座長　千葉ヘルス財団在宅ケア部会委員　海村　孝子氏 パネリスト　神経内科千葉　所長　篠遠　仁氏 天台歯科医院　院長　石毛　清雄氏 千葉県薬剤師会　在宅医療委員会委員　伊藤　克洋氏 ふたわ訪問看護ステーション　管理者　大桐　四季子氏 シャローム若葉訪問介護事業所　管理者　貴島　美里氏	会場：プラザ菜の花
10月15日　臓器移植市民公開講座　参加者：47名 テーマ：“知ろう、学ぼう”～糖尿病と移植医療～ 基調講演 座長　千葉ヘルス財団臓器移植部会長　竜　崇正氏 「糖尿病性腎症の予防・治療」 千葉東病院内科　医師　関　直人氏 「糖尿病性腎症予防のための生活指導」 千葉東病院　糖尿病認定看護師　名和　晃司氏 「糖尿病性腎症に対する移植医療」 千葉東病院外科　医師　丸山　通広氏 体験談およびパネルディスカッション 「知っておきたい糖尿病性腎症の予防と治療の実際」 座長　千葉ヘルス財団臓器移植部会長　竜　崇正氏 生体腎移植体験者　池田　和仁氏 膵臓腎臓同時移植体験者　佐久間　健一氏 千葉東病院内科　医師　関　直人氏 千葉東病院　糖尿病認定看護師　名和　晃司氏 千葉東病院外科　医師　丸山　通広氏 生体腎臓移植を経験なされた方　池田　和仁氏	会場：プラザ菜の花
平成30年度 9月23日　在宅ケア研修会　　参加者：119名 テーマ：医療的ケアを必要とする子どもや家庭が普通の生活を送るために 基調講演 座長　千葉ヘルス財団代表理事　平山　登志夫氏 「在宅クリニックがはじめるキッズケア～ 地域包括ケアシステムを見据えて～」 オレンジホームケアクリニック代表　紅谷　浩之氏 「千葉県の医療的ケア児への支援の現状と課題」 千葉県千葉リハビリテーションセンター　愛育園長　石井　光子氏 「小児在宅歯科診療～在宅療養中の子供達に歯科医療を～」 医療法人社団瑞祥会　いいづか歯科クリニック 院長　飯塚　真司氏 パネルディスカッション「適正な地域支援の実現に向けて～その役割と連携～」 座長　千葉ヘルス財団在宅ケア部会委員　中村　宏氏 パネリスト　訪問看護ステーションひとみ　管理者　小宮山　日登美氏 さかいリハ訪問看護ステーション・千葉　主任　白木　秀和氏 千葉リハビリテーションセンター 相談支援専門員　佐藤　郁夫氏 医療的ケアを必要とされている家族　野田　玲子氏 野田　匠氏	会場：プラザ菜の花

10月7日　2018グリーンリボンキャンペーン千葉 主催　千葉ヘルス財団、千葉県 後援　特定非営利活動法人千葉県腎臓病協議会 第一部　街頭啓発活動 第二部　心臓移植体験者及び心臓移植待機者による講演会 テーマ「二人三脚で生きる」 移植体験者：木内　博文氏 移植待機者：河合　容子氏 第三部　グリーンリボンコンサート うえのアニマルアンサンブル 臓器移植推進月間である10月の1ケ月間、千葉ポートタワーをグリーンにライトアップ。	会場：千葉ポートタワー
10月14日　臓器移植市民公開講座　　参加者：30名 テーマ：“知ろう、学ぼう”～ウイルス性肝炎と肝移植～ 基調講演 座長　千葉ヘルス財団臓器移植部会長　竜　崇正氏 「大きく変わったウイルス性肝炎の診療」 千葉大学医学部附属病院腫瘍内科　准教授　新井　誠人氏 「本邦移植の現状　～肝移植をもっと身近に～」 千葉大学医学部附属病院肝胆膵外科　教授　大塚　将之氏 体験談及びシンポジウム 座長　千葉ヘルス財団臓器移植部会長　竜　崇正氏 体験談　肝臓移植体験者　大塚　剛氏 シンポジウム　臓器移植推進に向けて シンポジスト　基調講演講師2名 心臓移植体験者　木内　博文氏 千葉県臓器移植コーディネーター　柴尾　裕加里氏	会場：プラザ菜の花
11月24日　地域在宅ケア研修会　参加者：30名 テーマ：「難病患者の災害に備えての準備と災害時の支援について」 座長　君津健康福祉センター　地域保健課長　福原　祐子氏 講演　「難病をもつ人のための災害の備え　今からできることを始めよう」 NPO法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会 事務局長　武田　飛呂城氏	会場：君津健康福祉センター
令和元年度 9月22日　在宅ケア研修会　　参加者：108名 テーマ：医療的ケアを必要とする子どもや家族への支援にむけて 基調講演 座長　千葉ヘルス財団代表理事　平山　登志夫氏 「医療的ケアがあっても安心して暮らし、学びたい」 国立研究開発法人　国立成育医療研究センター もみじの家ハウスマネージャー　内多　勝康氏 「Ｈ３０年度重症心身障害児者および医療的ケア児者の実態調査の結果から見えてくる千葉県の課題」 千葉県千葉リハビリテーションセンター 愛育園長　石井　光子氏 シンポジウム「適正な地域支援の実現に向けて」 座長　千葉ヘルス財団在宅ケア部会委員　中村　宏氏 シンポジスト　基調講演講師2名 特定非営利活動法人フローラファミリー 理事長　川名　延江氏 千葉県健康福祉部障害福祉事業課長　野澤　邦彦氏 千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課長　酒井　昌史氏 医療的ケアを必要とされている家族　佐藤　通子氏	会場：プラザ菜の花
10月6日　2019グリーンリボンキャンペーン千葉 第一部　街頭啓発活動 第二部　心臓移植体験者及び心臓移植待機者によるトークショー テーマ「生きる～命をつないで～」 移植体験者：木内　博文氏 移植待機者：河合　容子氏、村上　剛氏	会場：千葉ポートタワー

第三部　グリーンリボンコンサート うえのアニマルアンサンブル 臓器移植推進月間である10月の1ケ月間、千葉ポートタワーを グリーンにライトアップ。	
10月13日　臓器移植市民公開講座 テーマ：腎臓病患者の治療と移植医療 基調講演 座長　千葉ヘルス財団臓器移植部会長　竜　崇正氏 「腎臓の働きに応じた食事管理」 千葉大学医学部附属病院臨床栄養部　管理栄養士　鶴岡　裕太氏 「慢性腎臓病の診断と治療」 千葉大学医学部附属病院腎臓内科　教授　淺沼　克彦氏 「千葉県における腎移植医療の現況」 千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科　講師　丸山　通広氏 体験談及びパネルディスカッション 体験談　人工透析患者　中村　厚氏 腎臓移植体験者　吉田　道子氏 パネルディスカッション　臓器移植推進に向けて パネリスト　基調講演講師3名 人工透析患者 腎臓移植体験者	台風のため中止
11月5日　地域在宅ケア研修会　　参加者：22名 テーマ：「難病患者の災害に備えての準備と災害時の支援について」 座長　　安房健康福祉センター主任保健師　小宮　朋子氏 講演　　「神経筋疾患の呼吸管理と在宅ケア」 千葉県こども病院医療局診療部　神経科部長　小俣　卓氏	会場：安房合同庁舎
令和2年度 **9月13日　在宅ケア研修会　　参加者：72名** テーマ：難病患者への災害時の支援について ～台風被害の体験を踏まえて～ 基調講演　「医療的ケア児に対する災害時の支援を考える～毎年来る災害とコロナ流行の中で～」 国立研究開発法人　国立育成医療研究センター 診療部長　中村　知夫氏 「医師として難病患者としての災害対策」 NPO法人　Smile　and　Hope　理事長　太田　守武氏 シンポジウム「災害時の電源確保のための備え」 鋸南町訪問看護ステーション　上野　由美子氏 千葉市保健福祉局高齢障害部障害者自立支援課 石井　和孝氏	会場:プラザ菜の花
10月11日　市民公開講座　　参加者：44名 テーマ：腎臓病患者の治療と移植医療 基調講演「腎臓の働きに応じた食事管理」 千葉大学医学部附属病院臨床栄養部　管理栄養士　鶴岡　裕太氏 「慢性腎臓病の診断と治療」 千葉大学医学部附属病院腎臓内科　講師　相澤　昌史氏 「千葉県における腎移植医療の現況」 千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科　講師　丸山　通広氏 体験談及びパネルディスカッション 中村　厚氏・吉田　道子氏	会場:プラザ菜の花
11月27日　地域在宅ケア研修会　　参加者：31名 テーマ：「難病患者の災害に備えての準備と災害時の支援について」 講演　　「医師として難病患者としての災害対策」 NPO法人　Smile　and　Hope　理事長　太田　守武氏 「災害への準備～昨年の台風と豪雨の経験から～」 長生健康福祉センター　角井　綾氏	会場：長生健康福祉センター （長生合同庁舎）

財団法人千葉ヘルス財団出捐金一覧

自治体								
団体名	合計	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度
千葉県	300,000,000	300,000,000						
市町村	125,000,000	37,500,000	37,500,000	17,500,000	17,500,000	15,000,000		
合計	425,000,000	337,500,000	37,500,000	17,500,000	17,500,000	15,000,000	0	0

医療関係								
団体名	合計	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度
病院　20 件	7,600,000	7,600,000						
40 件	2,880,000		2,880,000					
佐原泌尿器クリニック	700,000					700,000		
三愛記念クリニック	5,000,000					5,000,000		
津田沼病院	1,500,000					1,500,000		
国保旭中央病院	4,000,000					2,000,000	2,000,000	
山之内製薬㈱	600,000	600,000						
小野薬品工業㈱	600,000	600,000						
中外製薬㈱	600,000	600,000						
エスエス製薬㈱	800,000	800,000						
白鳥製薬㈱	400,000	400,000						
藤沢薬品工業㈱	600,000	600,000						
大日本製薬㈱	600,000	600,000						
三共㈱	600,000	600,000						
㈱龍角散	800,000	800,000						
三井製薬工業㈱	800,000	800,000						
日本新薬	600,000		600,000					
第一製薬	600,000		600,000					
栄研化学	800,000		800,000					
エーザイ	600,000		600,000					
日本製薬	800,000		800,000					
鳥居薬品	1,400,000		1,400,000					
田辺製薬	600,000		600,000					
塩野義製薬	600,000		600,000					
武田薬品工業	600,000		600,000					
ダイナボット㈱	800,000		800,000					
サンド薬品	400,000		400,000					
㈱ミドリ十字千葉支店	600,000		600,000					
バイエル薬品㈱	600,000			600,000				
千葉県腎臓病患者連絡協議会	3,000,000	2,900,000	100,000					
千葉県医薬品配置協議会	450,000	300,000					150,000	
千葉県医薬品配置協議会・青年部	900,000	200,000	100,000	150,000	300,000	150,000		
千葉県がんセンター・看護部	100,000	100,000						
千葉県医師会	30,393,500	6,000,000	6,393,500	6,000,000	6,000,000	6,000,000		
千葉県看護協会	3,000,000	3,000,000						
(社) 千葉県接骨師会	3,200,000	1,200,000	1,000,000	1,000,000				
千葉県薬剤師検査センター	4,500,000	2,500,000				1,000,000	1,000,000	
千葉県がんセンター・職員一同	124,000	124,000						
老人保健施設協議会	100,000	100,000						
(財) 千葉県医療センター	1,000,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000		
(財) 千葉県予防衛生協会	5,000,000		2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000		
(財) 結核予防会千葉県支部	5,000,000		3,000,000		1,000,000	1,000,000		
(財) 千葉県対がん協会	5,000,000		2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000		
千葉県歯科医師会	20,000,000		2,000,000		2,000,000	2,000,000	14,000,000	
千葉県製薬協会	500,000		500,000					
千葉県薬剤師会	2,500,000		2,500,000					
日本 ALS 協会千葉県支部	50,000		50,000					
千葉県医療用具工業会	50,000		50,000					
歯科技工士会	112,000		112,000					
千葉県医薬品卸協同組合	2,000,000			1,000,000	1,000,000			
医療法人誠仁会 (みはま病院)	5,000,000			5,000,000				
医療法人財団松圓会	5,000,000			5,000,000				
医療法人社団原村医院	400,000			400,000				
合計	134,459,500	30,624,000	31,285,500	21,350,000	12,500,000	21,550,000	17,150,000	0

経済団体								
企業等名	合計	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度
阿部建設	500,000	500,000						
シーメンス旭メディカル㈱	100,000	100,000						
千葉テレビ放送㈱	1,000,000	1,000,000						
㈱千葉日報社	2,000,000	2,000,000						
千葉日報社会福祉事業団	4,000,000		1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000		
千葉県商工会婦人部連合会	1,000,000	1,000,000						
合計	8,600,000	4,600,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	0

ボランティア・その他								
団体等名	合計	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度
ライオンズクラブ国際協会 333-C 地区	14,464,000	14,464,000						
磯部まち子	200,000	200,000						
石神初江	300,000	300,000						
国際ロータリー第 2790 地区ガバナー	312,000	312,000						
(財) 日産厚生会佐倉厚生園	300,000	300,000						
ロータリー	1,000,000		1,000,000					
船橋ロータリー・クラブ	200,000		200,000					
船橋市京葉ライオンズクラブ	300,000				300,000			
武富裕次	500,000	500,000						
塚越光子	30,000		30,000					
成島辰朗	300,000		300,000					
中居賢一	100,000		100,000					
野村瞭	27,000		27,000					
本多昭一	100,000			100,000				
小関光二	1,000,000			1,000,000				
石上初枝	100,000			100,000				
池田和久	400,000				200,000	200,000		
樋口徳郎	500,000				500,000			
木村牧子	50,000				50,000			
佐々木瑛	100,000					100,000		
佐藤弘昭	500,000					500,000		
木内清子	300,000					300,000		
合計	21,083,000	16,076,000	1,657,000	1,200,000	1,050,000	1,100,000	0	0

銀行								
銀行名	合計	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度
㈱千葉興業銀行	5,000,000	5,000,000						
㈱京葉銀行	5,100,000	5,000,000		100,000				
㈱千葉銀行	10,000,000	10,000,000						
千葉県信用金庫協会	5,000,000	5,000,000						
住友信託銀行	900,000			200,000	200,000	200,000	200,000	100,000
合計	26,000,000	25,000,000	0	300,000	200,000	200,000	200,000	100,000

合計								
	合計	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度
合計	615,142,500	413,800,000	71,442,500	41,350,000	32,250,000	38,850,000	17,350,000	100,000

財団法人千葉ヘルス財団出捐金（市町村再掲）

No.	市町村		合計	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
1	千葉市		14,486,000	4,346,000	4,346,000	2,028,000	2,028,000	1,738,000
2	銚子市		1,936,000	581,000	581,000	271,000	271,000	232,000
3	市川市		7,864,000	2,359,000	2,359,000	1,101,000	1,101,000	944,000
4	船橋市		9,493,000	2,848,000	2,848,000	1,329,000	1,329,000	1,139,000
5	館山市		1,420,000	426,000	426,000	199,000	199,000	170,000
6	木更津市		2,580,000	774,000	774,000	361,000	361,000	310,000
7	松戸市		8,193,000	2,458,000	2,458,000	1,147,000	1,147,000	983,000
8	野田市 2003.06.06		3,491,000	1,047,300	1,047,300	488,500	488,500	419,400
		野田市	2,430,000	729,000	729,000	340,000	340,000	292,000
		関宿町	1,061,000	318,300	318,300	148,500	148,500	127,400
9	茂原市		1,907,000	572,000	572,000	267,000	267,000	229,000
10	成田市 2006.03.27		2,788,000	836,200	836,200	390,400	390,400	334,800
		成田市	1,964,000	589,000	589,000	275,000	275,000	236,000
		下総町	347,000	104,100	104,100	48,600	48,600	41,600
		大栄町	477,000	143,100	143,100	66,800	66,800	57,200
11	佐倉市		2,941,000	882,000	882,000	412,000	412,000	353,000
12	東金市		1,261,000	378,000	378,000	177,000	177,000	151,000
13	旭市 2005.07.01		2,459,000	737,600	737,600	344,300	344,300	295,200
		旭市	1,157,000	347,000	347,000	162,000	162,000	139,000
		干潟町	390,000	117,000	117,000	54,600	54,600	46,800
		海上町	447,000	134,100	134,100	62,600	62,600	53,600
		飯岡町	465,000	139,500	139,500	65,100	65,100	55,800
14	習志野市		3,053,000	916,000	916,000	427,000	427,000	367,000
15	柏市 2005.03.28		7,049,000	2,114,800	2,114,800	986,900	986,900	845,600
		柏市	5,643,000	1,693,000	1,693,000	790,000	790,000	677,000
		沼南町	1,406,000	421,800	421,800	196,900	196,900	168,600
16	勝浦市		927,000	278,000	278,000	130,000	130,000	111,000
17	市原市		4,846,000	1,454,000	1,454,000	678,000	678,000	582,000
18	流山市		2,863,000	859,000	859,000	401,000	401,000	343,000
19	八千代市		3,007,000	902,000	902,000	421,000	421,000	361,000
20	我孫子市		2,534,000	760,000	760,000	355,000	355,000	304,000
21	鴨川市 2005.02.11		1,410,000	422,900	422,900	197,600	197,600	169,000
		鴨川市	1,027,000	308,000	308,000	144,000	144,000	123,000
		天津小湊町	383,000	114,900	114,900	53,600	53,600	46,000
22	鎌ヶ谷市		2,102,000	631,000	631,000	294,000	294,000	252,000
23	君津市		2,005,000	601,000	601,000	281,000	281,000	241,000
24	富津市		1,425,000	428,000	428,000	199,000	199,000	171,000
25	浦安市		2,450,000	735,000	735,000	343,000	343,000	294,000
26	四街道市		1,716,000	515,000	515,000	240,000	240,000	206,000
27	袖ヶ浦市		1,391,000	417,000	417,000	195,000	195,000	167,000
28	八街市		1,649,000	494,700	494,700	230,900	230,900	197,800
29	印西市 2010.03.23		1,399,000	419,700	419,700	195,900	195,900	167,800
		印旛村	390,000	117,000	117,000	54,600	54,600	46,800
		本埜村	258,000	77,400	77,400	36,100	36,100	31,000
30	白井市		1,256,000	376,800	376,800	175,800	175,800	150,800
31	富里市		1,433,000	429,900	429,900	200,600	200,600	172,000

32	いすみ市 2005.12.05		1,687,000	506,100	506,100	236,100	236,100	202,600
		夷隅町	368,000	110,400	110,400	51,500	51,500	44,200
		大原町	771,000	231,300	231,300	107,900	107,900	92,600
		岬町	548,000	164,400	164,400	76,700	76,700	65,800
33	匝瑳市 2006.01.23		1,466,000	439,900	439,900	205,200	205,200	175,800
		八日市場市	1,043,000	313,000	313,000	146,000	146,000	125,000
		野栄町	423,000	126,900	126,900	59,200	59,200	50,800
34	南房総市 2006.03.20		2,398,000	719,400	719,400	335,800	335,800	287,600
		富浦町	311,000	93,300	93,300	43,500	43,500	37,400
		富山町	328,000	98,400	98,400	45,900	45,900	39,400
		三芳村	264,000	79,200	79,200	37,000	37,000	31,600
		白浜町	322,000	96,600	96,600	45,100	45,100	38,600
		千倉町	560,000	168,000	168,000	78,400	78,400	67,200
		丸山町	304,000	91,200	91,200	42,600	42,600	36,400
		和田町	309,000	92,700	92,700	43,300	43,300	37,000
35	香取市 2006.03.27		3,032,000	909,800	909,800	424,500	424,500	363,400
		佐原市	1,336,000	401,000	401,000	187,000	187,000	160,000
		小見川町	926,000	277,800	277,800	129,700	129,700	111,000
		山田町	484,000	145,200	145,200	67,800	67,800	58,000
		栗源町	286,000	85,800	85,800	40,000	40,000	34,400
36	山武市 2006.03.27		2,029,000	608,700	608,700	284,000	284,000	243,600
		成東町	778,000	233,400	233,400	108,900	108,900	93,400
		山武町	536,000	160,800	160,800	75,000	75,000	64,400
		蓮沼村	259,000	77,700	77,700	36,300	36,300	31,000
		松尾町	456,000	136,800	136,800	63,800	63,800	54,800
37	酒々井町		710,000	213,000	213,000	99,400	99,400	85,200
38	栄町		808,000	242,400	242,400	113,100	113,100	97,000
39	神崎町		290,000	87,000	87,000	40,600	40,600	34,800
40	多古町		661,000	198,300	198,300	92,500	92,500	79,400
41	東庄町		670,000	201,000	201,000	93,800	93,800	80,400
42	横芝光町 2006.03.27		1,047,000	314,100	314,100	146,600	146,600	125,600
		横芝町	562,000	168,600	168,600	78,700	78,700	67,400
		光町	485,000	145,500	145,500	67,900	67,900	58,200
43	大網白里町		1,156,000	346,800	346,800	161,800	161,800	138,800
44	九十九里町		710,000	213,000	213,000	99,400	99,400	85,200
45	芝山町		374,000	112,200	112,200	52,400	52,400	44,800
46	一宮町		460,000	138,000	138,000	64,400	64,400	55,200
47	睦沢町		362,000	108,600	108,600	50,700	50,700	43,400
48	長生村		460,000	138,000	138,000	64,400	64,400	55,200
49	白子町		493,000	147,900	147,900	69,000	69,000	59,200
50	長柄町		372,000	111,600	111,600	52,100	52,100	44,600
51	長南町		470,000	141,000	141,000	65,800	65,800	56,400
52	大多喜町		524,000	157,200	157,200	73,300	73,300	63,000
53	御宿町		362,000	108,600	108,600	50,700	50,700	43,400
54	鋸南町		477,000	143,100	143,100	66,800	66,800	57,200
	合計		125,000,000	37,500,000	37,500,000	17,500,000	17,500,000	15,000,000

財団法人千葉ヘルス財団　役員一覧

	H3.6（設立当初）	H4.3	H9.5	H10.3	H10.7.24	H11.2	H11.8
会長	沼田　武	沼田　武	沼田　武	沼田　武	沼田　武	沼田　武	沼田　武
理事長	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄
副理事長	渡辺　武	渡辺　武	渡辺　武	渡辺　武	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳
副理事長	諸橋芳夫	諸橋芳夫	諸橋芳夫	諸橋芳夫	諸橋芳夫	諸橋芳夫	諸橋芳夫
常務理事	嶋村欣一	嶋村欣一	佐柳　進	佐柳　進	渡貫博孝	渡貫博孝	加藤恒生
理事	高橋國雄	高橋國雄	高橋國雄	寺嶋周三	寺嶋周三	寺嶋周三	寺嶋周三
理事	京増正儀	京増正儀	江畑耕筰	江畑耕作	江畑耕作	江畑耕作	綿貫博孝
理事	勝又豊次郎	勝又豊次郎	磯村貞雄	磯村貞雄	磯村貞雄	磯村貞雄	磯村貞雄
理事	高橋喜三郎	高橋喜三郎	尾﨑至郎	尾﨑至郎	尾﨑至郎	尾﨑至郎	尾﨑至郎
理事	松澤　秀郎	橋爪藤光		平塚新兵衛	平塚新兵衛	平塚新兵衛	平塚新兵衛
理事		林　豊	浅井利勇	浅井利勇	浅井利勇	浅井利勇	浅井利勇
理事		篠塚　惠	嶋村欣一	嶋村欣一	嶋村欣一	嶋村欣一	嶋村欣一
理事	長島　彪	長島　彪	吉成　儀	内藤利夫	加藤恒生	加藤恒生	林　静誠
理事	平塚新兵衛	平塚新兵衛	横山健郎	横山健郎	横山健郎	横山健郎	横山健郎
理事	小林金市		高橋英世	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦
理事	小出桂三	小出桂三	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫
理事	平山登志夫	平山登志夫	渋谷禎子	渋谷禎子	渋谷禎子	渋谷禎子	渋谷禎子
理事	野口照義	野口照義	野口照義	角田興一	角田興一	角田興一	角田興一
理事	赤井つる	赤井つる	石橋暎壽	河野　功	河野　功	河野　功	河野　功
理事	大塚英子	大塚英子	中村和子	中村和子	中村和子	中村和子	中村和子
理事	中村和子	中村和子	岀網由雄	玉置　孝	玉置　孝	玉置　孝	玉置　孝
理事		野村　瞭	一條泰汎	谷口　克	谷口　克	谷口　克	谷口　克
理事	橋爪藤光	吉成　儀	吉田豊彦	荒　孝一	荒　孝一	荒　孝一	佐藤喜美子
理事				綿貫　博孝	山本哲男	山本哲男	山本哲男
理事							
監事	玉置　孝	玉置　孝		早川恒雄	早川恒雄	早川恒雄	早川恒雄
監事	山本孝也	山本孝也	山本孝也	山本孝也	山本孝也	山本孝也	奥山　浩

在宅ケア部会委員

	H3.6.11（設立当初）					H11.2	H11.8
部会長	平山登志夫					平山登志夫	平山登志夫
副部会長	嶋村欣一					嶋村欣一	嶋村欣一
委員	栗原伸夫					今井尚志	今井尚志
委員	北　耕平					近藤宜雄	近藤宜雄
委員	鈴木弘祐					鈴木弘祐	鈴木弘祐
委員	大神ヨシコ					宮崎やす子	宮崎やす子
委員	高木きく					高木きく	大森道子
委員	橋場永尚					中村　宏	中村　宏
委員	鈴木有年					伊藤昌男	伊藤昌男
委員						足立敏夫	斉藤昴宏
委員							
委員							

腎バンク部会委員

	H3.6.11（設立当初）					H11.2	H11.8
部会長	橋爪藤光					横山健郎	横山健郎
副部会長	嶋村欣一					嶋村欣一	嶋村欣一
委員	落合武徳					落合武徳	落合武徳
委員	横山健郎					田島知行	田島知行
委員	長谷川賢二					鈴木正市	鈴木正市
委員	冨田　伸					冨田　伸	冨田　伸
委員	吉田豊彦					吉田豊彦	吉田豊彦
委員	渡邉義郎					渡邉義郎	渡邉義郎
委員							
委員							

財団法人千葉ヘルス財団　役員一覧

	H12.6	H13.5	H14.8	H15.8	H16.8	H17.10.1	H18.5.30
会長	沼田　武						
理事長	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄	土屋秀雄
副理事長	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳
副理事長							
常務理事	佐藤喜美子	松井宏之	松井宏之	松井宏之	松井宏之	小泉光正	小泉光正
理事	寺嶋周三	寺嶋周三	寺嶋周三	並木宏夫	渡貫博孝	渡貫博孝	渡貫博孝
理事	渡貫博孝	渡貫博孝	渡貫博孝	渡貫博孝	中山夘一郎	中山夘一郎	相川勝重
理事	磯村貞雄	磯村貞雄	磯村貞雄	磯村貞雄	坂戸誠一	坂戸誠一	坂戸誠一
理事	尾﨑至郎	尾﨑至郎	尾﨑至郎		千葉滋胤	千葉滋胤	千葉滋胤
理事	平塚新兵衛	平塚新兵衛	平塚新兵衛	平塚新兵衛	磯村貞雄	磯村貞雄	磯村貞雄
理事	浅井利勇	三枝一雄	岡野正義		飯塚信一	飯塚信一	飯塚信一
理事	嶋村欣一	長山忠雄	實川堅司郎	坂戸誠一	平塚新兵衛	平塚新兵衛	平塚新兵衛
理事	林　静誠	林　静誠	三枝一雄	三枝一雄	福田康一郎	徳久剛史	徳久剛史
理事	横山健郎	横山健郎	横山健郎	横山健郎	岸田　隆	岸田　隆	岸田　隆
理事	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	三枝一雄	三枝一雄	三枝一雄
理事	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	横山健郎	横山健郎	横山健郎
理事	渋谷禎子	渋谷禎子	新井藤江	新井藤江	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦
理事	角田興一	角田興一	角田興一	角田興一	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫
理事	河野　功	千葉滋胤	千葉滋胤	千葉滋胤	渡辺一男	竜　崇正	竜　崇正
理事	中村和子	中村和子	中村和子	中村和子	角田興一	小林繁樹	小林繁樹
理事	玉置　孝	福田康一郎	梅田　勝	梅田　勝	新井藤江	新井藤江	新井藤江
理事	谷口　克	大野由記子	大野由記子	大野由記子	中村和子	中村和子	中村和子
理事	加藤恒生	瀬上清貴	福田康一郎	崎山　樹	山口忠則	山口忠則	山口忠則
理事	山本哲男		長山忠雄	飯島信一	大野由記子	大野由記子	大野由記子
理事				福田康一郎			
監事	早川恒雄	早川恒雄	早川恒雄	早川恒雄	竹山　正	竹山　正	竹山　正
監事	奥山　浩	奥山　浩	奥山　浩	中野英昭	山本哲男	山本哲男	山本哲男

在宅ケア部会委員

	H12.6	H13.5	H14.8	H15.8	H16.8	H17.10	H18.5
部会長	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫
副部会長	嶋村欣一	長山忠雄	長山忠雄	崎山　樹	渡辺一男	竜　崇正	竜　崇正
委員	今井尚志	今井尚志	今井尚志	吉山容正	吉山容正	吉山容正	吉山容正
委員	近藤宜雄	近藤宜雄	近藤宜雄	近藤宜雄	池崎良三	池崎良三	田那付　宏
委員	守　正英	守　正英	守　正英	守　正英	守　正英	守　正英	宮地直丸
委員	宮崎やす子	宮崎やす子	宮崎やす子	宮崎やす子	佐野袈裟美	佐野袈裟美	佐野袈裟美
委員	大森道子	大森道子	大森道子	日置スマ子	日置スマ子	越川英子	越川英子
委員	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏
委員	水戸律夫	水戸律夫	水戸律夫	翠川鎮生	翠川鎮生	翠川鎮生	溝口万里子
委員	斉藤昴宏	斉藤昴宏	斉藤昴宏	中嶋祥治	中嶋祥治	中嶋祥治	井上貴夫
委員							
委員							

腎バンク部会委員

	H12.6	H13.5	H14.8
部会長	横山健郎	横山健郎	横山健郎
副部会長	嶋村欣一	長山忠雄	長山忠雄
委員	堀　誠司	堀　誠司	堀　誠司
委員	田島知行	田島知行	田島知行
委員	鈴木正市	鈴木正市	鈴木正市
委員	冨田　伸	冨田　伸	冨田　伸
委員	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦
委員	渡邉義郎	渡邉義郎	渡邉義郎
委員			
委員			

臓器移植部会委員

	H15.8	H16.8	H17.10	H18.5
部会長	横山健郎	横山健郎	横山健郎	横山健郎
副部会長	崎山　樹	渡辺一男	竜　崇正	竜　崇正
委員	落合武徳	落合武徳	落合武徳	落合武徳
委員	田島知行	鈴木　満	鈴木　満	李　笑求
委員	鈴木正市	鈴木正市	積田圭市	積田圭市
委員	冨田　伸	冨田　伸	冨田　伸	冨田　伸
委員	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦
委員	中村　弘	中村　弘	中村　弘	中村　弘
委員				
委員				

財団法人千葉ヘルス財団　役員一覧

	H19.7.9	H20.7.1	H21.7.9	H22.11.1	H23.6.1	H25.2
会長						
理事長	土屋秀雄	土屋秀雄	崎山　樹	崎山　樹	崎山　樹	崎山　樹
副理事長	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳	藤森宗徳	井上　雄元
副理事長						
常務理事	木村正人	木村正人	木村正人	木村正人	藤崎則夫	藤崎則夫
理事	志賀直温	志賀直温	志賀直温	志賀直温	志賀直温	志賀直温
理事	相川勝重	相川勝重	相川勝重	相川勝重	相川勝重	相川勝重
理事	坂戸誠一	坂戸誠一	坂戸誠一	坂戸誠一	坂戸誠一	坂戸誠一
理事	千葉滋胤	千葉滋胤	千葉滋胤	石井俊昭	石井俊昭	石井俊昭
理事	磯村貞雄	磯村貞雄	冠谷公明	門井拓充	門井拓充	島田守夫
理事	飯塚信一	飯塚信一	飯塚信一	飯塚信一	飯塚信一	飯塚信一
理事	山中義忠	山中義忠	中村博亘	織田吉郎	織田吉郎	得居　仁
理事	徳久剛史	徳久剛史	中谷晴昭	中谷晴昭	中谷晴昭	中谷晴昭
理事	岸田　隆	岸田　隆	浅野薫之	浅野薫之	浅野薫之	浅野薫之
理事	三枝一雄	三枝一雄	三枝一雄	三枝一雄	三枝一雄	三枝一雄
理事	横山健郎	横山健郎	横山健郎	横山健郎		
理事	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦
理事	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫
理事	竜　崇正	竜　崇正	中川原　章	中川原　章	中川原　章	中川原　章
理事	小林繁樹	小林繁樹	小林繁樹	小林繁樹	小林繁樹	小林繁樹
理事	新井藤江	松永敏子	松永敏子	松永敏子	松永敏子	山木まさ
理事	中村和子	中村和子	中村和子	中村和子	中村和子	中村和子
理事	小川雅司	小川雅司	戸谷久子	戸谷久子	川島貞夫	川島貞夫
理事	大野由記子	大野由記子	大野由記子	大野由記子	大野由記子	大野由記子
理事						
監事	竹山　正	竹山　正	佐久間英利	佐久間英利	佐久間英利	佐久間英利
監事	山本哲男	山本哲男	山本哲男	山本哲男	山本哲男	山本哲男

在宅ケア部会委員

	H19.5	H20.7.1	H21.5	H22.11	H23.6	H24
部会長	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫
副部会長	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正
委員	吉山容正	吉山容正	吉山容正	吉山容正	吉山容正	吉山容正
委員	田那付　宏	石川広己	石川広己	田畑陽一郎	田畑陽一郎	田畑陽一郎
委員	宮地直丸	海村孝子	海村孝子	海村孝子	海村孝子	海村孝子
委員	佐野袈裟美	佐野袈裟美	権平くみ子	権平くみ子	権平くみ子	権平くみ子
委員	神山邦子	大塚けい子	大塚けい子	田中あやこ	田中あやこ	
委員	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏
委員	溝口万里子	溝口万里子	溝口万里子	溝口万里子	溝口万里子	岡　進
委員	永山洋子	植草　薫	植草　薫	川守三喜男	川守三喜男	星野惠美子
委員	二通健司	藤澤里子	藤澤里子	藤澤里子	藤澤里子	筒井　勝
委員		永山洋子	永山洋子	永山洋子	永山洋子	

臓器移植部会委員

	H19.5	H20.7.1	H21.5	H22.11	H23.6	H24
部会長	横山健郎	横山健郎	横山健郎	横山健郎	横山健郎	竜　崇正
副部会長	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	川越一男
委員	宮内英聡	宮内英聡	宮内英聡	宮内英聡	宮内英聡	宮内英聡
委員	吉田豊彦	吉田豊彦	渡辺三郎	渡辺三郎	渡辺三郎	吉田豊彦
委員	李　笑求	李　笑求	李　笑求	川越一男	川越一男	渡辺三郎
委員	積田圭市	積田圭市	中村　厚	中村　厚	中村　厚	圷　尚武
委員	冨田　伸	冨田　伸	吉田豊彦	吉田豊彦	吉田豊彦	中村　厚
委員	中村　弘	中村　弘	中村　弘	中村　弘	中村　弘	中村　弘
委員	剣持　敬	剣持　敬	剣持　敬	剣持　敬	剣持　敬	宮崎麻里子
委員	宮崎麻里子	宮崎麻里子	宮崎麻里子	宮崎麻里子	宮崎麻里子	

公益財団法人千葉ヘルス財団　役員一覧 ※平成 25 年 4 月 1 日公益財団法人へ移行

	H25.11.1	H26.4.1	H26.6.11	H27.6.2	H28.12.31	H29.12.31	H30.12.31	R 元 .12.31	R2.12.31
評議員	井上雄元	井上雄元	井上雄元	田畑陽一郎	田畑陽一郎	田畑陽一郎	入江康文	入江康文	入江康文
評議員	谷　修一	谷　修一	谷　修一	谷　修一	谷　修一	松谷有希雄	松谷有希雄	松谷有希雄	松谷有希雄
評議員	浅野薫之	浅野薫之	斎藤英生	斎藤英生	斎藤英生	砂川　稔	砂川　稔	砂川　稔	砂川　稔
評議員	赤田靖英	赤田靖英	赤田靖英	萩原　博	萩原　博	萩原　博	萩原　博	萩原　博	萩原　博
評議員	麻生忠男	麻生忠男	石野良和	石野良和	石野良和	石野良和	杉浦邦夫	杉浦邦夫	杉浦邦夫
理事長	崎山　樹	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫
理事	平山登志夫			中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏
理事	堺谷　操	堺谷　操	小柴祥司	小柴祥司	小柴祥司	山根康夫	山根康夫	山根康夫	堤　紳一
理事	山木まさ	山木まさ	澤田いつ子	澤田いつ子	澤田いつ子	澤田いつ子	澤田いつ子	澤田いつ子	井上惠子
常務理事	藤﨑則夫	藤﨑則夫	藤﨑則夫	能重芳雄	能重芳雄	能重芳雄	能重芳雄	能重芳雄	大谷俊介
監事	岩瀬収公	岩瀬収公	岩瀬収公	岩瀬収公	岩瀬収公	岩瀬収公	岩瀬収公	大川哲夫	大川哲夫
監事	山本哲男	山本哲男	山本哲男	本間惇夫	本間惇夫	本間惇夫	本間惇夫	本間惇夫	本間惇夫

在宅ケア部会委員

	H25.11	H26		H27.6	H28.12	H29.12	H30.12	R 元 .12	R2.12
部会長	平山登志夫	平山登志夫		平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫	平山登志夫
副部会長	竜　崇正	竜　崇正		竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正
委員	吉山容正	吉山容正		吉山容正	吉山容正	伊藤喜美子	伊藤喜美子	伊藤喜美子	伊藤喜美子
委員	岡　進	松岡かおり		松岡かおり	伊藤喜美子	松岡かおり	松岡かおり	松岡かおり	和田浩明
委員	海村孝子	海村孝子		海村孝子	松岡かおり	海村孝子	海村孝子	海村孝子	大野京子
委員	権平くみ子	権平くみ子		権平くみ子	海村孝子	中島弘道	中島弘道	小俣　卓	小俣　卓
委員	栗原正彦	栗原正彦		星岡　明	星岡　明	藤里正視	藤里正視	藤里正視	藤里正視
委員	星野恵美子	福留浩子		福留浩子	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏	中村　宏
委員	中村　宏	中村　宏		中村　宏	栗原正彦	小宮あゆみ	小宮あゆみ	宗田友紀子	宗田友紀子
委員	筒井　勝	筒井　勝		松野朝之	福留浩子	福留浩子	福留浩子	福留浩子	渡辺尚子
委員	永山洋子	永山洋子		川上純子	権平くみ子	権平くみ子	権平くみ子	権平くみ子	山﨑潤子
委員	長沼　勝	長沼　勝		金子恵子	松野朝之	松野朝之	松野朝之	松野朝之	松野朝之
委員	金子恵子	金子恵子			川上純子	川上純子	川上純子	川上純子	川上純子
委員					金子恵子	古川恭子	古川恭子	古川恭子	古川恭子

臓器移植部会委員

	H25.11	H26		H27.6	H28.12	H29.12	H30.12	R 元 .12	R2.12
部会長	竜　崇正	竜　崇正		竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正	竜　崇正
副部会長	川越一男	川越一男		川越一男	川越一男	川越一男	川越一男	川越一男	川越一男
委員	宮内英聡	宮内英聡		宮内英聡	宮内英聡	宮内英聡	宮内英聡	松宮護郎	松宮護郎
委員	入江康文	入江康文		入江康文	入江康文	入江康文	入江康文	入江康文	入江康文
委員	渡辺三郎	渡辺三郎		渡辺三郎	渡辺三郎	高橋　功	高橋　功	高橋　功	高橋　功
委員	圷　尚武	圷　尚武		丸山通広	丸山通広	丸山通広	丸山通広	丸山通広	丸山通広
委員	中村　厚	中村　厚		中村　厚	中村　厚	中村　厚	中村　厚	中村　厚	中村　厚
委員	中村　弘	宮田昭宏		宮田昭宏	宮田昭宏	宮田昭宏	宮田昭宏	宮田昭宏	宮田昭宏
委員	宮崎麻里子	宮崎麻里子							
委員									

写真で振り返る30年の歴史

2003年3月7日在宅ケア研修会

1996年1月29日在宅ケア講習会

2004年1月21日在宅ケア研修会

2010年10月
臓器移植街頭キャンペーン

2014年感謝状を受け取る平山理事長（中央左）と
日本ALS協会千葉県支部川上事務局長（中央右）

2016年7月24日、8月3日国保旭中央病院にて高校生
対象セミナー（出前講座）

2016年12月18日成田赤十字病院にて地域在宅ケア
研修会で講師を務める小野沢滋講師

2016年12月20日県立我孫子高校で
行われた臓器移植推進出前講座

2017年9月2日船橋市保健福祉センターで
開催の地域住宅ケア研修会

2018年6月29日千葉大医学部で
行われた臓器移植推進出前講座

2018年10月7日千葉ポートタワーで開催の2018グリーンリボンキャンペーン

2019年9月22日開催の在宅ケア講習会

2020年9月13日開催の在宅ケア講習会に参加する太田先生

2020年10月11日開催の臓器移植についての市民公開講座

公益財団法人千葉ヘルス財団　定款

第１章　総則

（名称）

第１条　この法人は、公益財団法人千葉ヘルス財団と称する。

（事務所）

第２条　この法人は、主たる事務所を千葉県千葉市に置く。

第２章　目的及び事業

（目的）

第３条　この法人は、保健医療の分野における重要かつ新たな課題に対し、有効な保健医療体制の推進に資する事業を行うとともに、総合的臓器不全対策の推進に関する事業を行い、もって県民の健康の保持増進と保健医療の向上に寄与することを目的とする。

（事業）

第４条　この法人は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

（１）在宅医療体制を推進するための事業の実施及び助成

（２）老人医療、難病医療及び終末期医療に対する体制を推進するための事業の　実施及び助成

（３）総合的臓器不全対策を推進するための事業の実施及び助成

（４）前各号に関する情報の提供及び知識の普及啓発

（５）その他前各号の事業を達成するために必要な事業

第３章　財産及び会計

（財産の種類）

第５条　この法人の財産は、基本財産及びその他の財産の２種とする。

２　基本財産は、この法人の目的である事業をおこなうために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。

３　その他の財産は、基本財産以外のものとする。

（基本財産の維持及び処分）

第６条　この法人は、基本財産について、適正な維持及び管理に努めるものとする。

２　やむを得ない理由により、基本財産の一部を取崩し事業実施費用に充てる場合は、別に定める特定資産等取扱規程により、理事会の決議を経て行うことができる。

（財産の管理及び運用）

第７条　この法人の財産は、理事長が管理及び運用し、その方法は、この定款に定めるもののほか、理事会の決議により別に定める財務規程及び特定資産等取扱規程によるものとする。

（事業年度）

第８条　この法人の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。

（事業計画及び収支予算）

第９条　この法人の事業計画、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

２　前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間　備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第１０条　この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

（１）事業報告

（２）事業報告の附属明細書

（３）貸借対照表

（４）損益計算書（正味財産増減計算書）

（５）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

（６）財産目録

２　前項の承認を受けた書類のうち、第１号、第３号、第４号及び第６号の書類については、定時

評議員会に提出し、第１号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

３　第１項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に５年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（１）監査報告

（２）理事及び監事並びに評議員の名簿

（３）理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

（４）運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

第４章　評議員

（評議員の定数）

第１１条　この法人に評議員３名以上７名以内を置く。

（評議員の定数）

第１２条　評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律　第１７９条から第１９５条の規定に従い、評議員会において行う。

２　評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。

（１）各評議員について、次のイからへに該当する評議員の合計数が評議員の総数の３分の１を超えないものであること。

イ　当該評議員及びその配偶者又は３親等内の親族

ロ　当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者

ハ　当該評議員の使用人

ニ　ロ又はハに掲げる者以外のものであって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持している者

ホ　ハ又はニに掲げる者の配偶者

ヘ　ロからニまでに掲げる者の３親等内の親族であって、これらの者と生計を一にする者

（２）他の同一の団体（公益法人を除く。）の次のイからニに該当する評議員の合計数が評議員の３分の１を超えないものであること。

イ　理事

ロ　使用人

ハ　当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあっては、その代表者又は管理人）又は業務を執行　　する社員である者

ニ　次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。）である者

①　国の機関

②　地方公共団体

③　独立行政法人通則法第２条第１項に規定する独立行政法人

④　国立大学法人法第２条第１項に規定する国立大学法人又は同条第３項に規定する大学共同利用機関法人

⑤　地方独立行政法人法第２条第１項に規定する地方独立行政法人

⑥　特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人であって、総務省設置法第４条第１５号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。）

（評議員の任期）

第１３条　評議員の任期は、選任後４年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

２　任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

３　評議員は、第８条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

（評議員の報酬等）

第１４条　評議員に対して、各年度の総額が３０万円を超えない範囲で、評議員会において別に定める「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

第５章　評議員会

（構成）

第１５条　評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

（権限）

第１６条　評議員会は、次の事項について決議する。

（１）評議員の選任又は解任

（２）理事及び監事の選任又は解任

（３）理事及び監事の報酬等の額

（４）評議員に対する報酬等の支給の基準

（５）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認

（６）定款の変更

（７）残余財産の処分

（８）その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開催）

第１７条　評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後３箇月以内に１回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第１８条　評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

２　評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

（議長）

第１９条　評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員の中から選出する。

（決議）

第２０条　評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

２　前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の３分の２以上に当たる多数をもって行わなければならない。

（１）監事の解任

（２）評議員に対する報酬等の支給の基準

（３）定款の変更

（４）その他法令で定められた事項

３　理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。

（決議の省略）

第２１条　理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる評議員会の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

（報告の省略）

第２２条　理事が、評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

（議事録）

第２３条　評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

２　議事録には、議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人２名が記名押印する。

第６章　役員

（役員の設置）

第２４条　この法人に、次の役員を置く。

（１）理事　３名以上７名以内

（２）監事　２名以内

２　理事のうち１名を理事長とし、１名の常務理事を置くことができる。

３　前項の理事長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表　理事とし、常務理事をもって同法９１条第１項第２号の業務執行理事とする。

（役員の選任）

第２５条　理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

２　理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（理事の職務及び権限）

第２６条　理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

２　理事長は、法令及び定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を統括する。

３　常務理事は理事長を補佐し、この法人の業務を執行する。

４　理事長及び常務理事は、毎事業年度に４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第２７条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

２　監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第２８条　理事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

２　監事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

３　補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

４　理事又は監事は、第２４条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお、理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）

第２９条　理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

（１）職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

（２）心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（役員の報酬等）

第３０条　理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

第７章　理事会

（構成）

第３１条　理事会は、すべての理事をもって構成する。

（権限）

第３２条　理事会は、次の職務を行う。

（１）この法人の業務執行の決定

（２）理事の職務の執行の監督

（３）理事長及び常務理事の選定及び解職

（招集）

第３３条　理事会は、理事長が招集する。

２　理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。

（議長）

第３４条　理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

（決議）

第３５条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

（決議の省略）

第３６条　理事が、理事会の決議の目的である事項について、提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をし、監事が異議を述べないときには、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

（報告の省略）

第３７条　理事又は監事が、理事又は監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、その事項を理事会に報告することを要しない。

２　前項の規定は、第２６条第４項の規定による報告には適用しない。

（議事録）

第３８条　理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

２　出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第８章　定款の変更及び解散

（定款の変更）

第３９条　この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

２　前項の規定は、この定款の第３条、第４条及び第１１条についても適用する。

（解散）

第４０条　この法人は、法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

（公益認定の取消し等に伴う贈与）

第４１条　この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から１箇月以内に、公益社団法人　及び公益財団法人の認定等に関する法律第５条第１７号に掲げる法人又は国　若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

第４２条　この法人が清算する場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第５条第１７号に　掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第９章　公告の方法

（公告の方法）

第４３条　この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第１０章　委員会等

（企画委員会）

第４４条　この法人が行う事業を円滑に執行するため、企画委員会（以下「委員会」という。）を置くことができる。

２　委員会を構成する委員は、理事会の議決を経て理事長が委嘱する。

３　委員会は、理事長の諮問に応じ、次に掲げる事項を審議し、その結果を報告する。

（１）第４条に規定する事業の企画及び審査

（２）その他理事長が必要と認めた事項

４　前各項に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、理事会の議決を経て理事長が定める。

第１１章　事務局

（設置等）

第４５条　この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

２　事務局には、事務局長その他の職員を置く。

３　事務局長は、理事会の議決を経て、理事長が任免する。

４　その他の職員は、理事長が任免する。

５　事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

第１２章　補則

（委任）

第４６条　この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

附　則

１　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人　及び公益財団法人認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する　法律第１０６条第１項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

２　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団　法人認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第１０６条第１項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第５条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

３　この法人の設立の登記日現在の理事及び監事は、次に掲げる者とする。

理事　崎山　樹、平山　登志夫、二野宮　淳吉、
　　山木　まさ、藤崎　則夫

監事　山本　哲男、岩瀬　収公

４　この法人の最初の代表理事は、理事長　崎山　樹、最初の業務執行理事は、常務理事　藤崎　則夫とする。

５　この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

藤森　宗徳、浅野　薫之、麻生　忠男、赤田　靖英、谷　修一

附　則（平成 27 年６月２日）

この変更は、平成 27 年６月２日から適用する

附　則（令和２年５月２２日）

この変更は、令和２年５月２２日から適用する

発行日／令和３年１０月１日
千葉ヘルス財団３０周年記念誌
編集・発行／公益財団法人 千葉ヘルス財団
〒 260-8667　千葉市中央区市場町 1-1
千葉県健康福祉部疾病対策課内
TEL 043-223-2663
FAX 043-224-8910
印刷／株式会社 千葉日報社クロスメディア局